

# 南江戸闔目遺跡

1991

松山市教育委員会  
松山市立埋蔵文化財センター

—

# 南江戸闔目遺跡 くじゅくのめ

1991

松山市教育委員会  
松山市立埋蔵文化財センター

## 序

昭和47年、古墳時代の大規模な農業土木遺構として名を馳せた古照遺跡の堀が発見されですから既に20年近くが経過いたしました。松山市における本格的な埋蔵文化財行政は、この古照遺跡の調査からスタートしたといつても過言ではありません。南江戸廻目遺跡は、古照遺跡を至近の距離にひかえた中世の遺跡であります。当遺跡からは、土器生産、ないしは流通にかかわったと考えられるような多量の遺物を出土いたしております。

道後湯月城址、松山城二の丸址の例をひくまでもなく、近年、中世遺跡への関心はにわかに高まっております。このようななかで、本報告書を刊行できることは、考古学、歴史学関係者のみならず、わたくしども松山市民にとりましても意義深いものと思います。

本報告書が、多方面にわたって広く活用していただけることを心から願っております。最後になりましたが、調査にあたって多大の御協力、御配慮をいただきました関係各位の皆様方に厚くお礼申しあげます。

平成3年3月31日

松山市教育長  
池田尚郷

## 例　　言

1. 本書は、平成2年4月16日から6月30日にかけて行われた松山市南江戸4丁目1095、1096に所在する南江戸廻目遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査は、鹿島商会住宅部の委託を受け、松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センターが行った。

3. 調査にあたっての組織は、以下のとおりである。

調査主体	松山市教育委員会	教育長（前任）	平井 龜雄
		教育長	池田 尚郷
		教育長付参事	古本 克
		教育次長	井上 量公
		教育次長	一色 正士
	文化教育課	課 長	渡部 忠平
	松山市立埋蔵文化財センター	所 長	森脇 将
	調査係長 西尾 幸則	調査主任 田城 武志	
	調査主事 粟田 正芳	調査員 上田 真	調査員補 水本 完児

4. 本書の執筆は第6章(3)を水本完児が行い、それ以外の部分の執筆と編集を上田 真が行った。また、遺構の写真撮影は上田 真が、遺物の写真撮影は大西朋子が主として行った。

5. 発掘調査参加者は以下の通りである。

猪森しげ子、岩本 憲、岡本邦栄、笠松誠悟、亀山健一、杉内郷一、塙原竜一、豊田俊弘  
西田竜一、細田尚秀、政本和人、松岡和人、松岡末一、松原寛之、三江元則、村田 淳

(五十音順)

6. 整理・報告参加者は以下の通りである。

小川雅子、田窪あゆみ、富田紳子、西山美喜、兵頭牧子 (五十音順)

7. 調査に当たって、鹿島商会住宅部、有限会社 吉田商事の関係各位にはひとかたならぬご協力、ご配慮を賜った。記して、感謝の意を表します。

8. 本書を作成するのに次の各機関・個人に御教示を賜った。

御厚情に感謝します。

永田 信一（京都市埋蔵文化財センター）、

中野 良一（愛媛県埋蔵文化財センター）、

森田 稔（神戸市立博物館）（五十音順）

## 本文目次

第一章	調査に至る経過	1
第二章	遺跡の立地と環境	1
第三章	周辺の遺跡	1
第四章	調査区と地区割り	2
第五章	遺跡の基本層序	4
第六章	検出された遺構と遺物	7
(1)	掘立柱建物	7
(2)	土 壤	9
(3)	ピット	17
(4)	溝	31
(5)	土器集積遺構	33
(6)	遺構外出土遺物	47
第七章	考 察	48

## 挿図目次

図1	調査地周辺遺跡	2
図2	調査区と設定グリッド	3
図3	発掘区断面位置図	4
図4	Cライン土層図	5
図5	調査区東壁土層図	
図6	南江戸闇目遺跡検出遺構	6
図7	SB-1 出土遺物	7
図8	SB-2 出土遺物	
図9	SB-1 平断面図	8
図10	SB-2 平断面図	9
図11	SK-1 平断面、及び遺物出土状況図	10
図12	SK-1 出土遺物	12
図13	SK-3 平断面図	13
図14	SK-3 出土遺物	
図15	SK-4 出土遺物	
図16	SK-4 平断面図	14
図17	SK-5 出土遺物	
図18	SK-5 平断面図	
図19	SK-6 遺物出土状況図	15

図20	S K - 6	出土遺物	.....	15		
図21	S K - 7	平断面、及び遺物出土状況図	図22	S K - 8 平断面図	.....	16
図23	S K - 9	平断面図	図24	S P - 7 + 8 + 9 出土遺物	.....	
図25	S P - 1	平断面図	図26	S P - 2 平断面図	.....	17
図27	S P - 3	平断面図	図28	S P - 4 平断面図	.....	
図29	S P - 5	平断面図	図30	S P - 6 平断面図	.....	18
図31	S P - 7	平断面図	図32	S P - 8 平断面図	.....	
図33	S P - 9	平断面図	図34	S P - 10 平断面図	.....	
図35	S P - 11	平断面図				
図36	S P - 12 + 13	平断面図	図37	S P - 14 平断面図	.....	19
図38	S P - 15	平断面図	図39	S P - 16 平断面図	.....	
図40	S P - 17	平断面図	図41	S P - 18 平断面図	.....	
図42	S P - 18	出土遺物	図43	S P - 19 平断面図	.....	20
図44	S P - 20	平断面図	図45	S P - 21 平断面図	.....	
図46	S P - 23	出土遺物	図47	S P - 22 平断面図	.....	
図48	S P - 23	平断面図	図49	S P - 24 平断面図	.....	
図50	S P - 25	平断面図	図51	S P - 26 平断面図	.....	21
図52	S P - 27	平断面図	図53	S P - 28 平断面図	.....	
図54	S P - 29	平断面図	図55	S P - 30 平断面図	.....	
図56	S P - 31	平断面図				
図57	S P - 32 + 33 + 34	平断面図	図58	S P - 32 出土遺物	.....	22
図59	S P - 35 + 36	平断面図	図60	S P - 37 平断面図	.....	
図61	S P - 38	平断面図	図62	S P - 39 平断面図	.....	
図63	S P - 40	平断面図	図64	S P - 41 + 42 平断面図	.....	23
図65	S P - 43	平断面図	図66	S P - 44 平断面図	.....	
図67	S P - 45	出土遺物	図68	S P - 45 平断面図	.....	
図69	S P - 46	平断面図	図70	S P - 47 平断面図	.....	24
図71	S P - 48	平断面図	図72	S P - 49 平断面図	.....	
図73	S P - 50	平断面図	図74	S P - 51 平断面図	.....	
図75	S P - 52	平断面図	図76	S P - 53 出土遺物	.....	25
図77	S P - 53	平断面図	図78	S P - 54 平断面図	.....	
図79	S P - 55	平断面図	図80	S P - 56 平断面図	.....	
図81	S P - 57	平断面図				
図82	S P - 58	平断面図	図83	S P - 59 + 60 平断面図	.....	26
図84	S P - 61	平断面図	図85	S P - 62 + 63 平断面図	.....	
図86	S P - 64	平断面図	図87	S P - 65 平断面図	.....	

図88	S P - 66	平断面図	図89	S P - 66	出土遺物	.....	27
図90	S P - 67	平断面図	図91	S P - 68	平断面図		
図92	S P - 69	平断面図	図93	S P - 70	平断面図		
図94	S P - 71	平断面図	図95	S P - 72	平断面図		
図96	S P - 73	平断面図					
図97	S P - 74	平断面図	図98	S P - 75	平断面図	.....	28
図99	S P - 76	平断面図	図100	S P - 77	平断面図		
図101	S P - 78	平断面図					
図102	S P - 79	平断面図	図103	S P - 80	平断面図	.....	29
図104	S P - 81	平断面図	図105	S P - 82	平断面図		
図106	S P - 83	平断面図	図107	S P - 84	平断面図		
図108	S P - 85	平断面図	図109	S P - 86	出土遺物	.....	30
図110	S P - 87・88	平断面図	図111	S P - 89	平断面図		
図112	S P - 90・91	平断面図					
図113	S P - 92・93	平断面図	図114	S D - 2	平断面図	.....	31
図115	S D - 3	出土遺物	図116	S D - 4	平断面図		
図117	S D - 3	平断面図	図118	S D - 6	平断面図	.....	32
図119	S D - 6	出土遺物	図120	S D - 5	平断面図		
図121	S D - 7	平断面図	図122	1号土器集積造構平面図		.....	33
図123	2号土器集積造構平面図						34
図124	3号土器集積造構平面図						35
図125	3号土器集積造構出土遺物 (C - 5)						
図126	1・2号土器集積造構出土遺物 (C - 1・C - 2・D - 1・D - 2)						36
図127	2号土器集積造構出土遺物 (D - 2)						37
図128	2号土器集積造構出土遺物 (E - 1)						38
図129	2号土器集積造構出土遺物 (E - 1)						39
図130	2号土器集積造構出土遺物 (E - 1)						40
図131	造構外出遺物						47
図132	畠寺竹ヶ谷遺跡出土遺物						50
図133	石井幼稚園遺跡出土遺物(1)	図134	石井幼稚園遺跡出土遺物(2)			.....	51
図135	樽味四反地遺跡出土遺物	図136	古照G遺跡出土遺物			.....	52

## 表 目 次

表1	S B - 1 ・ S B - 2 出土遺物観察表	7
表2	S K - 1 出土遺物観察表	10・1111
表3	S K - 4 ・ S K - 5 ・ S K - 6 出土遺物観察表	15
表4	S K - 7 ・ S K - 8 ・ S K - 9 出土遺物観察表	16
表5	S P ・ S D 出土遺物観察表	33
表6	土器集積遺構出土遺物観察表	41～46
表7	遺構外出遺物観察表	47・48
表8	烟寺竹ヶ谷遺跡出土遺物観察表	53
表9	石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(1)	53
表10	石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(2)	54
表11	樽味四反地遺跡出土遺物観察表	54
表12	古照G遺跡出土遺物観察表	54

## 図版目次

図版1	遺構検出状況（南西から）	遺構検出状況（北から）
図版2	Cライン土層	東壁土層
図版3	S K - 1 検出状況	S K - 1 半截状況
図版4	S K - 1 断面	S K - 1 堀り上り
図版5	S K - 1 遺構検出状況	S K - 1 調査状況
図版6	S P - 89 半截	1号土器集積遺構
図版7	2号土器集積遺構	2号土器集積遺構
図版8	2号土器集積構拡大	2号土器集積遺構拡大
図版9	2号土器集積遺構	3号土器集積遺構
図版10	S K - 1 出土かわらけ	
図版11	S K - 1 出土かわらけ	S K - 4 出土かわらけ
図版12	S K - 7 出土かわらけ	2号土器集積遺構出土かわらけ
図版13	2号土器集積遺構出土かわらけ	
図版14	2号土器集積遺構出土かわらけ	
図版15	2号土器集積遺構出土かわらけ	
図版16	2号土器集積遺構出土かわらけ	3号土器集積遺構出土かわらけ
図版17	出土須恵器	出土瓦器
図版18	出土鍋	出土置き甌

## 第一章 調査に至る経過

本遺跡は松山市南江戸4丁目1095、1096に所在し、調査前は水田地であった。平成元年5月、株式会社穴吹工務店 代表取締役 穴吹夏次氏より開発の申請があったが、申請地が松山市埋蔵文化財包蔵地地図所載の古照遺跡内に当たるため、平成元年9月1日から9月12日にかけて試掘調査を実施した。試掘調査の結果、中世の土器(かわらけ)と木炭の大量出土から良好な中世遺跡と判断され、現状保存が望まれたが、新たに地権者となった鹿島商会 西原久男氏と協議の結果、本格調査を行うことになり、平成2年4月16日から同6月30日の約2ヶ月半にわたって調査を行った。

## 第二章 遺跡の立地と環境

石手川分流として西流する宮前川は大峰ヶ谷を避けて流れを南に変えた後、大峰ヶ台に沿って右折、その後分岐して北・西の2条の流れとなって瀬戸内海に注ぐ。石手川本流は現在は西南に流れ、松山市南部で重信川に合流するが、江戸時代初めに改修される前は西流して今の持田町や二番町を抜け、吉田浜に注いでいた。

南江戸闕目遺跡は、この旧石手川や宮前川が形成した海拔約12mの沖積低地上にあり、付近は水田地帯であるが、最近になって、松山市道千舟高岡線及び松山西環状線が開通し、宅地化が進みつつある。本遺跡の調査もこうした水田の宅地化に伴うものである。

## 第三章 周辺の遺跡

本遺跡周辺の遺跡としては、先ず南方150mの古照遺跡が挙げられる。古照遺跡は、昭和47年に発見された古墳時代前期の壠の遺跡であるが、壠を埋めた砂礫層からは縄文時代から中世までの各時代の土器が出土している。弥生時代の遺跡には、弥生時代中期の高地性集落が検出された大峰ヶ谷台遺跡、弥生時代後期の壺棺墓や竪穴住居跡が検出された澤遺跡などがある他、辻遺跡でも弥生時代後期の土器の集中出土が見られる。古墳時代の遺跡には前述の古照遺跡の他、大峰ヶ台北斜面には出現期の大峰台朝日谷2号墳、同じ大峰ヶ台に終末期の客谷古墳群、谷を挟んで西側の岩子山に岩子山、御産所古墳群が所在するなど、比較的恵まれている。古代については、本遺跡周辺に限らず、松山市全域で未だ様相が不明であるが、大峰ヶ台を挟んで反対側の衣山町でロストル式の瓦窯が報告されている他、さらに北方の久万ノ台遺跡でも平安時代の土器が出土している。

中世の遺跡は比較的多く、松山西環状線建設に伴う古照遺跡の調査では、多数の中世の土器の出土を見ている他、北斎院地内遺跡では室町時代から江戸時代にかけての土壙墓、南江戸桑田遺跡では江戸時代の桶棺墓が検出されている。これらと共に忘れてはならないのが、北方300mの鎌倉時代創建と伝えられる大宝寺の存在で、本遺跡地が、大宝寺の寺域、或は寺領に含まれていた

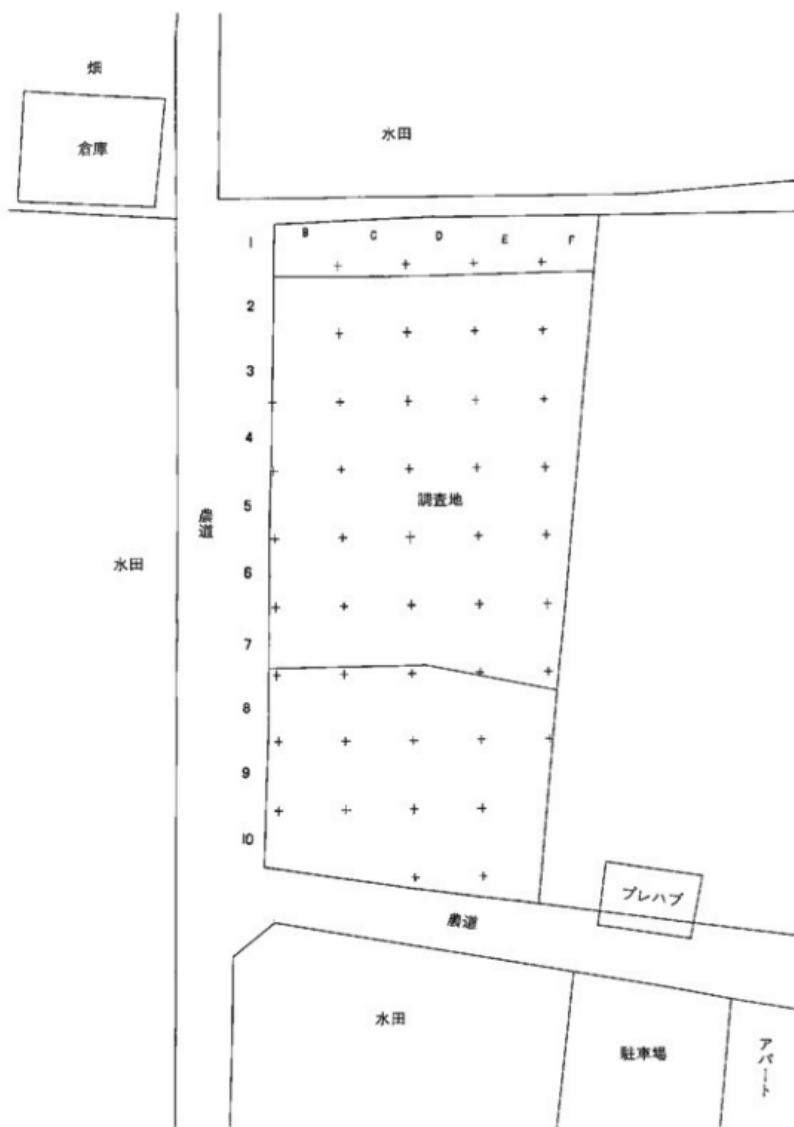


図1 調査地周辺道路

ことが充分に考えられ、注意を要する。

#### 第四章 調査区と地区割り

調査対象地は、南北約48m、東西約41mの東辺と西辺がほぼ平行な台形を呈し、面積は1,791m<sup>2</sup>である。試掘調査では、南北に3本（西から西トレンチ、中央トレンチ、東トレンチ）と、その北端に東西に1本（北トレンチ）の計4本のトレンチ掘りを行ったが、そのうち、東トレンチでは、遺構、遺物の検出が見られなかった。このため、東半分は廃土置き場及びプレハブ用地とし、西トレンチ、中央トレンチ及び北トレンチの西側を含む調査対象地のほぼ西半分の表土剥ぎを行った。更に表土を除去した結果、南側にいく程遺物の出土が疎であり、調査期間等との関係から、表土を剥いた地区的北側%、約470m<sup>2</sup>を最終的な調査区とした。グリッドは、後で地図上の位置が明確になるように、南辺の西南隅から約%の所にあった地境の標識を基点として、磁北の東西、南北方向の4m間隔に設定した。その後、調査区の西端がAラインとBラインの間、北端が1ラインと2ラインの間に含まれるように、西からA、B、C、…F、北から1、2、3、…8ラインを設定し、グリッドは4本のラインのに挟まれた間、その区分は西北隅で交る2本のラインの名称で表わすようにした。この結果、元の基点は、E-12となった。



## 第五章 遺跡の基本層序

本遺跡の層序は、大きく12層に分かれる。I層は灰色粘質土層で耕作土である。II層は赤褐色粘質土層で床土であるが、赤褐色土中の灰色土の混合状態によって更に4層程度に細分層が可能である。III層は赤褐色土粒を含む灰色砂質土層で遺物の包含層である。調査区全面に安定して存在する。IV層は遺物を含まない灰色砂質土層であるが、部分的にしか存在しない。V層は砾を含む粗めの灰色砂質土で遺物を包含する。調査区内の各所に島状に見られ、宮前川の氾濫時に凹地に土砂が溜ったものと思われる。VI層は暗灰褐色粘質土層で、IV層と同じく無遺物層で調査区内に部分的に存在する。VII層は黒灰色粘質土層で、遺物を包含すると共に、大部分の遺構もこの層内で検出された。調査区全面に安定的に存在する。VIII層はVII層よりやや明るめの暗灰色粘質土であるがVII層と異なり遺物を含まない。ほぼ調査区全面に安定的に存在する。IX、X、XI層は各々、灰褐色砂質土、赤褐色土混灰褐色砂質土、明灰色砂質土、と遺物を全く含まない砂層である。層序を見るために壁際で掘り下げる他は、発掘しなかった。その他に遺構の埋土であったと思われる炭灰を含む黒灰色粘質土（X層）や炭灰と赤褐色土塊を含む黒灰色粘質土（XIV層）、洪水時に溜まったと思われる明灰色粗砂（XIII層）や灰色粗砂（XV層）が部分的に塊状に見られた。

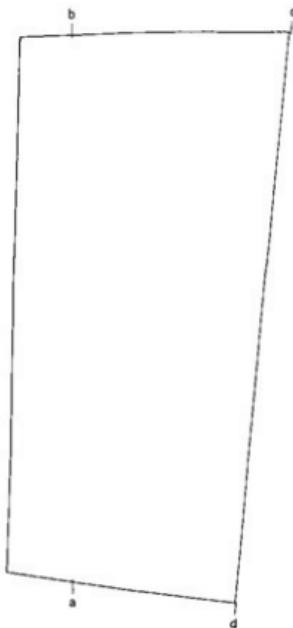


図3 発堀区断面位置図

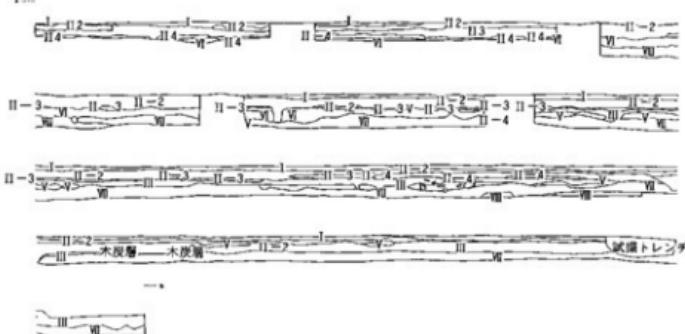


図4 Cライン土層図

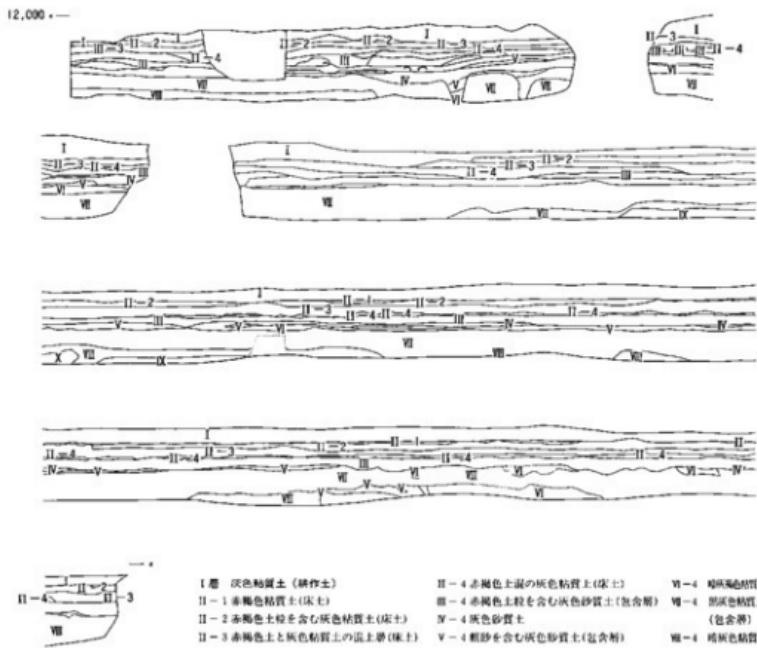


図5 調査区東壁土層図

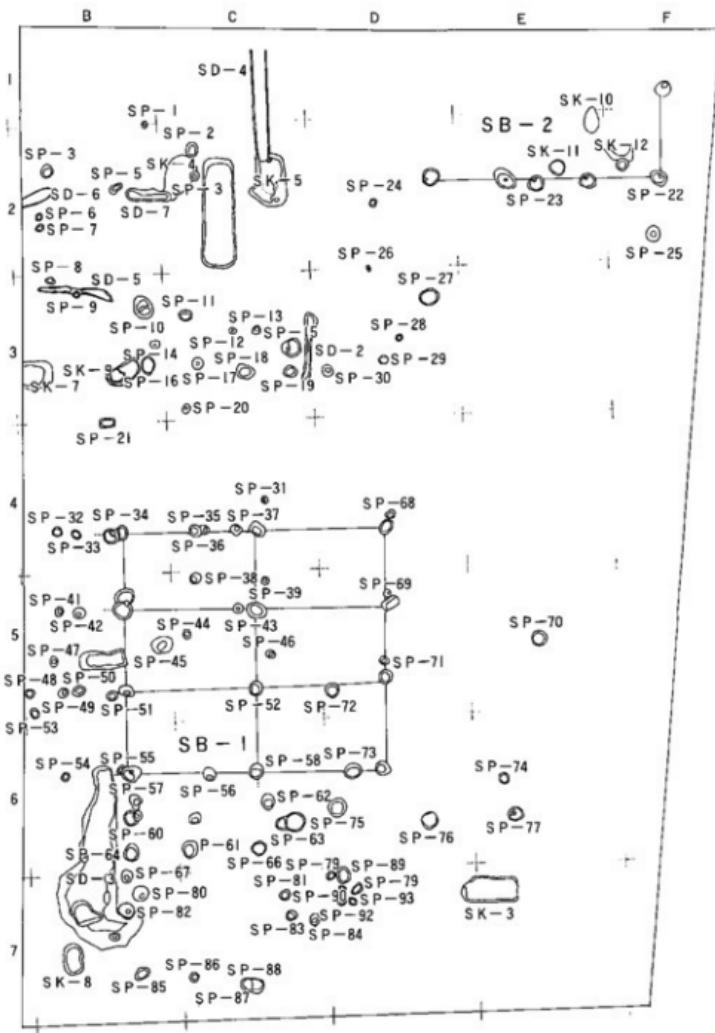


図6 南江戸跡目遺跡検出遺構

## 第六章 検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は掘立柱建物2棟、土壙12基、溝6条、ピット93基、土器集積遺構等であるが、北壁際の土壙3基、ピット6基については調査の途中で確認面より高い北隣の水田との境が決壊する恐れが生じたため、プランを確認したのみで、未調査のまま埋め戻した。これらの遺構に伴う遺物は、稀に古墳時代の須恵器蓋坏や甕片の混入が見られるが、ほとんど平安時代末から鎌倉時代の土器（かわらけ）で、これに同時代の中世陶器や輸入陶磁器が伴う。このことより、これらの遺構はすべて、平安時代末から鎌倉時代のものと思われる。

### (1) 掘立柱建物

#### SB-1

遺構 調査区のほぼ中央部西寄りのB-4~6、C-4~6、D-4~6グリッドのⅧ層上面で検出された。桁行方向をN-2°-Eとほぼ真北にとる桁行3間、梁行2間の総柱式の建物であるが、西側の調査区外に延びる3間×3間の東西に長い建物であったことも考えられる。この場合、P-19、P-51、SP-3も入口施設のようなSB-1に関連する遺構であるかもしれない。

遺物 図示したものの他、土器少量が出土している。

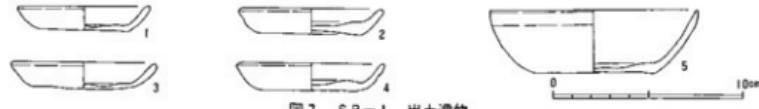


図7 SB-1 出土遺物

#### SB-2

遺構 調査区の北東部D-F-1、2グリッドのⅧ層上面で検出された。他の遺構との切り合ひ関係はない。桁行3間、梁行1間の建物であるが、北部を遺構確認途中に埋め戻したため、梁行桁数は不明である。調査された南辺のピットはいずれも柱痕が残っており、しかもピット底面より深くめり込んでいた。

遺物 図示したものの他、土器少量が出土している。



図8 SB-2 出土遺物

図版 番号	出土遺構	口径 (cm)	高さ (cm)	體高 (cm)	底 面	外 面	内 面	備 考
7-1	SB-1	7.0	4.7	1.4	回転糸切り後磨滅	回転ナデ	回転ナデ	
2	"	7.5	5.5	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
3	"	7.5	5.5	1.5	"	"	"	
4	"	7.7	5.1	1.5	"	"	"	
5	"	10.9	6.4	3.4	右回転糸切り後磨滅	"	"	
8-0	SB-2	7.2	5.6	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	

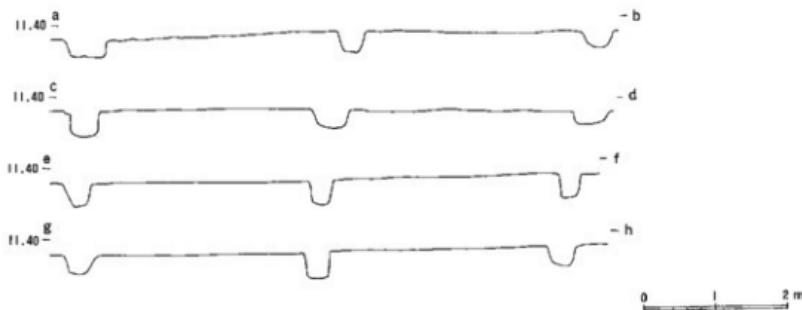
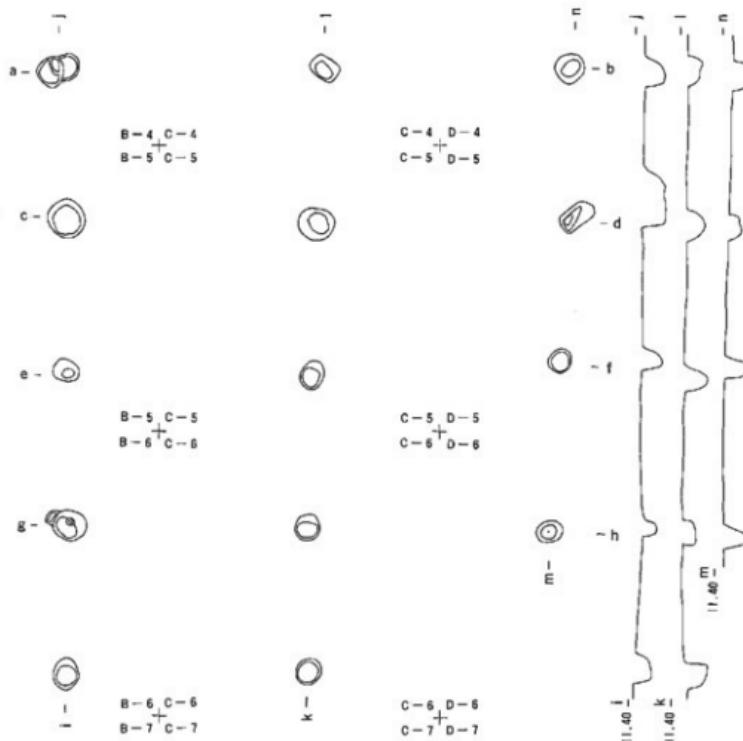


図 9 SB-I 平断面図

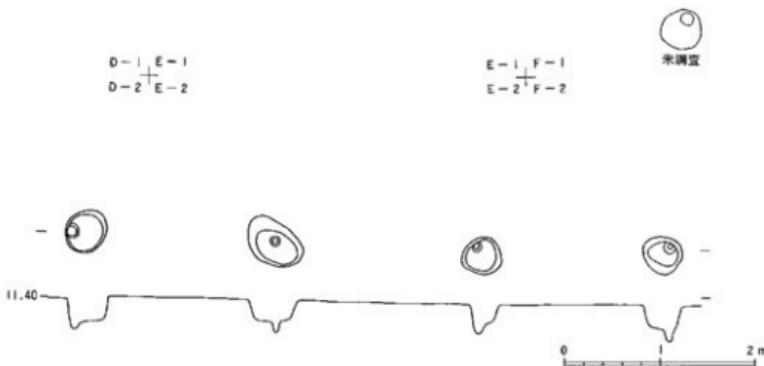


図10 SB-2 平断面図

## (2) 土 壤

### SK-1

**遺構** 調査区の西部、B-5 グリッドのⅢ層上面で多数の土器片の集中により検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長径約1.2m、短径約0.6m、確認面よりの深さ約30cmで、主軸をW-5°-Sとはほぼ東西にとる長方形であるが、西側は隅が角ばる。埋土は固く締まった灰色の粘質土で2～3mmの炭粒が多数混じるが、それを上回る量の土器片が出土しており、土器片の間に土が入っていると言っても過言ではない。

**遺物** 図示したものを含めて多数の土器片が出土している他、東播系陶器腰片と少數の礫が出土している。土器片は上層では比較的小片であるが、下層のものは完形または完形に近く、それらは重なって出土する傾向が見られた。

### SK-2

**遺構** 調査区の中央部北西寄りのC-3 グリッドで検出されたが、掘り込みが極めて浅く調査中に消滅した。

**遺物** 鉄滓10数点が出土している。

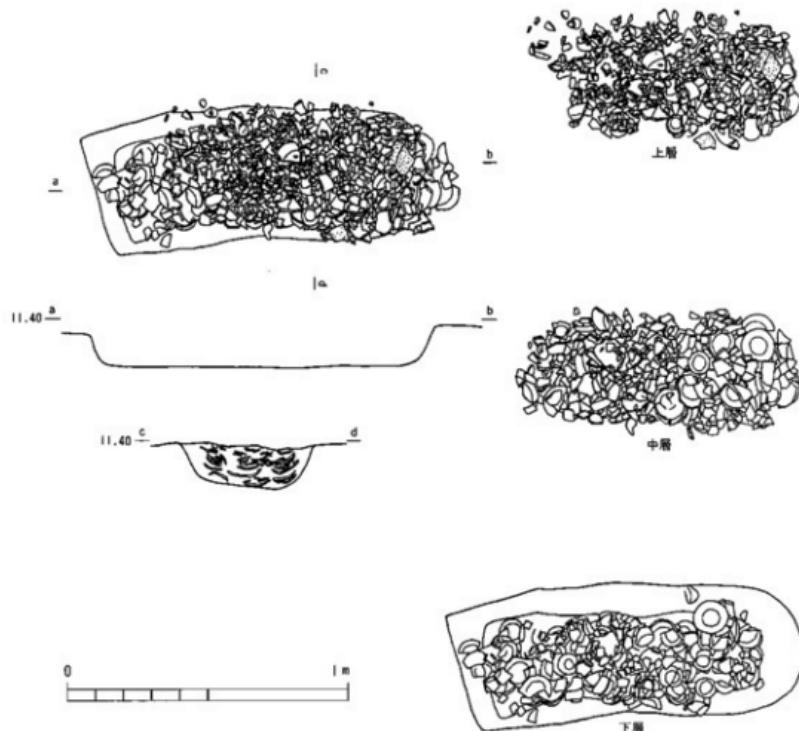


図11 SK-1 平断面及び遺物出土状況図

表2 SK-1 出土遺物観察表

回収 番号	出土遺構	口径 (cm)	高径 (cm)	沿高 (cm)	底 面	外 面	内 面	備 考
12-1	SK-1	7.5	5.1	1.1	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
2	"	7.5	5.4	1.4	"	"	"	
3	"	7.7	5.0	1.4	"	"	"	
4	"	7.7	5.4	1.1	右回転糸切り後磨滅	"	"	
5	"	7.8	5.1	1.0	右回転糸切り	"	"	
6	"	7.8	5.4	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	

図版 番号	出土遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	底 面	外 面	内 面	備 考
12- 7	SK-1	7.8	5.7	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
8	"	7.9	4.5	1.2	"	"	"	
9	"	7.9	4.8	1.4	右回転糸切り	"	"	
10	"	7.9	5.5	1.1	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
11	"	7.9	5.8	1.0	"	"	"	
12	"	8.0	5.2	1.3	右回転糸切り	"	"	
13	"	8.0	5.4	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
14	"	8.0	5.5	1.4	右回転糸切り	—	—	
15	"	8.0	5.6	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
16	"	8.0	6.2	1.2	"	"	"	
17	"	8.1	5.3	1.2	"	"	"	
18	"	8.1	5.7	1.1	右回転糸切り	"	"	
19	"	8.2	5.4	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
20	"	8.2	5.6	1.2	"	"	"	
21	"	8.2	5.8	1.2	"	"	"	
22	"	8.2	5.9	1.5	右回転糸切り後磨滅	"	"	
23	"	8.2	6.0	1.1	右回転糸切り	"	"	
24	"	8.4	5.7	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
25	"	11.2	7.4	2.6	"	"	"	
26	"	12.2	7.0	2.8	"	"	"	
27	"	12.2	7.4	2.9	右回転糸切り	"	"	
28	"	12.2	7.5	3.4	右回転糸切り後磨滅	"	"	
29	"	12.3	7.7	3.0	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
30	"	12.4	7.7	3.0	"	"	"	
31	"	12.4	6.9	3.0	"	"	"	
32	"	12.4	7.2	3.1	"	"	"	
33	"	12.4	7.5	3.0	"	"	"	
34	"	12.4	7.9	3.3	"	"	"	
35	"	12.5	8.0	3.0	"	"	"	
36	"	12.6	8.5	3.7	"	"	"	
37	"	12.6	8.3	3.9	磨 滅	"	"	
38	"	12.6	6.9	3.2	右回転糸切り	"	"	
39	"	12.6	7.7	3.3	"	"	"	
40	"	12.6	7.8	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
41	"	12.8	7.3	3.1	"	"	"	
42	"	12.9	8.1	3.3	"	"	"	
43	"	13.2	8.1	3.2	右回転糸切り	"	"	
44	"	—	(12.6)	—	糸切り?	"	"	

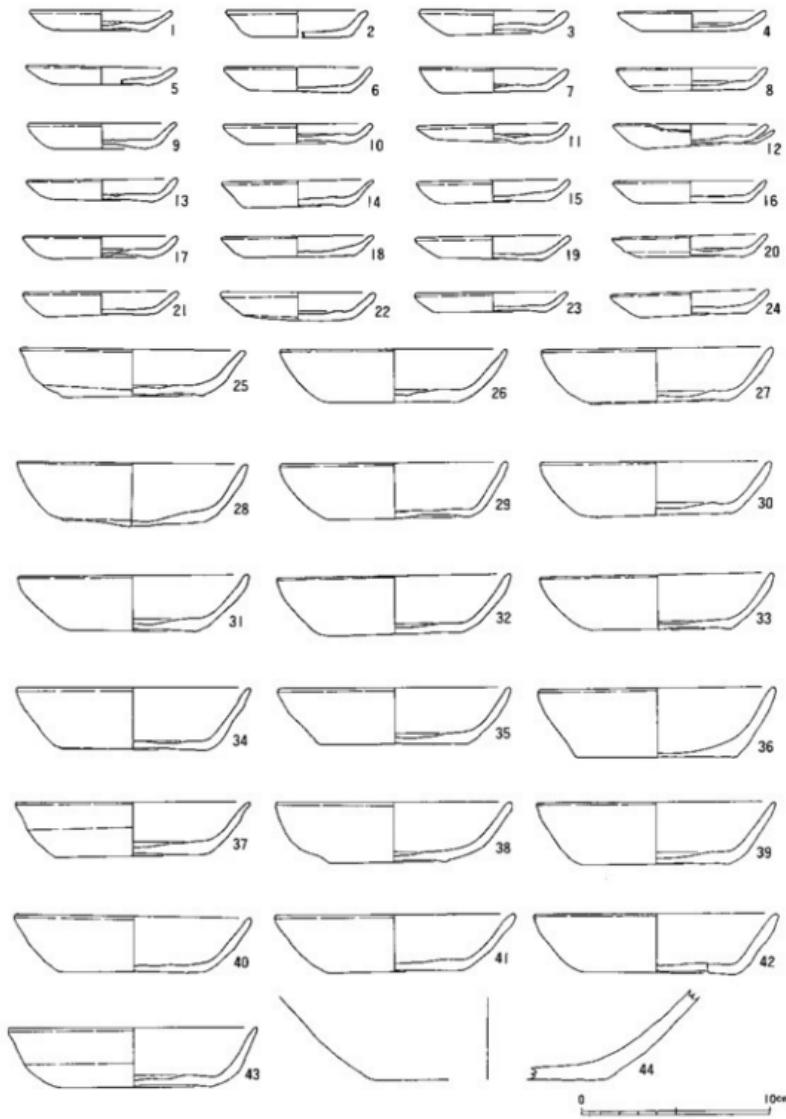


図12 SK-1 出土遺物

### SK-3

造構 調査区の南東部、D-7、E-7グリッドのVII層中で検出された。他の造構との切り合い関係はない。長辺約1.5m、短辺約0.7mの主軸をN-78°-Wとほぼ東西にとる隅丸方形であるが、プランの確認に手間取ったため確認面よりの深さは約10cmである。

埋土は稲穀を焼いたような灰を含む上層の黒褐色土とそれを含まない下層の暗褐色土に大きく分かれるが、灰の混じり方が必ずしも一樣ではなく、プランの確認に手間取った。

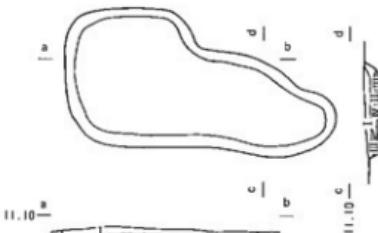


図13 SK-3 平断面図

遺物 図示した小刀の他、少量の土器片と鉄滓が出土している。また、漆器であったと思われる漆の付着した布片と置き竈片は確認面より上層からの出土であるが、出土位置や状況から見て、本来この土壤に伴っていたと思われる。

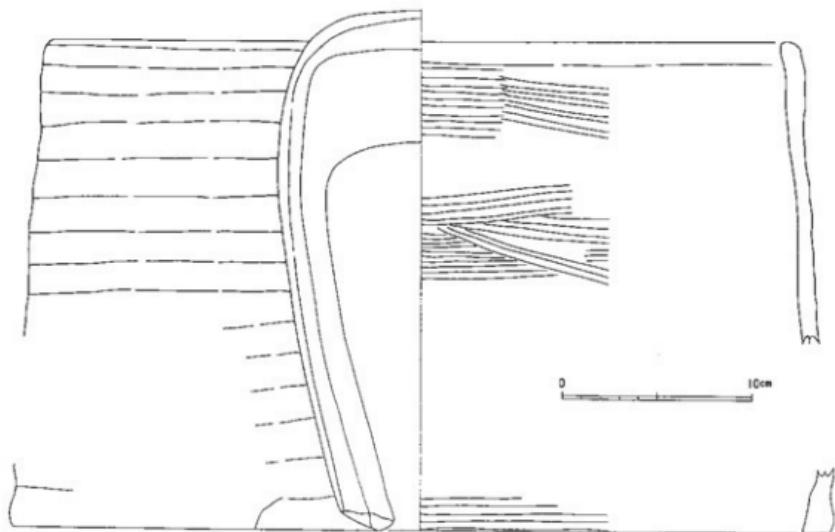


図14 SK-3 出土置き竈

#### SK-4

遺構 調査区の北西部、C-2グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長辺約3.0m、短辺約0.9mの主軸方向をN-2°-Eとはば南北にとる隅丸長方形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋土は、上から、茶褐色砂質土、灰褐色粗砂土、明灰色砂質土の3層に大きく分かれ、部分的に乳褐色粘質土が塊状に見られる。

遺物 図示したものの他、土器片が少量出土している。

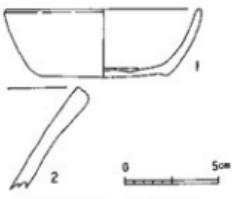


図15 SK-4 出土遺物

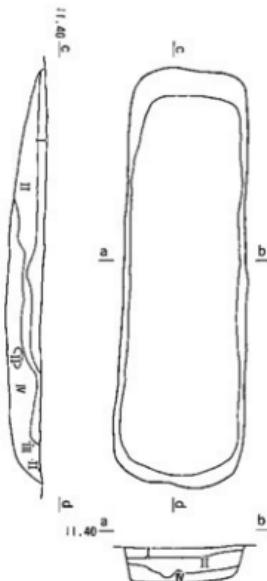


図16 SK-4 平断面図

#### SK-5

遺構 調査区北部のC-2グリッドのⅦ層上面で検出された。SD-2に切られる。長径約1.4m、短径約0.8mの主軸方向をN-1°-Wとはば南北にとる隅丸長方形で、確認面よりの深さは約10cmである。埋土は暗灰褐色砂質土を主とし、上層の一部に焼土が見られる。

遺物 図示したものの他、土器片が少量出土している。



図17 SK-5 出土遺物

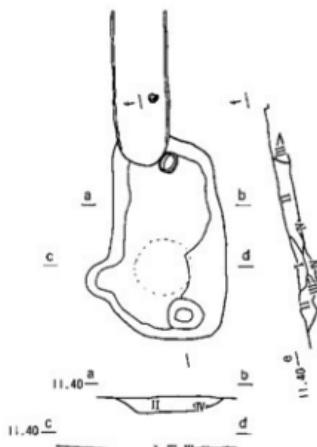


図18 SK-5 平面図

## SK-6

造構 調査区北西部のC-2グリッドのⅣ層上面で多数の土器の集中により検出された。検出時には既に削平してしまっていたが、その上層で一度は卵形のプランを確認しており、下層で出土した土器の集中範囲と一致することから、掘り込みがあったものと判断した。SP-9、SD-7を切る。埋土は、地山と同じ暗褐色土に乳白色の粘土が斑に混じっていた。

遺物 図示したものも含め、土器片多数が出土している。土器のなかには畿内産またはその模倣と思われる底部を糸切りによらないものもある。

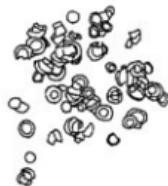


図19 SK-6 遺物出土状況図

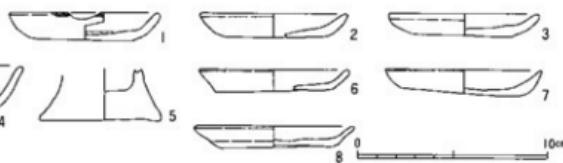


図20 SK-6 出土遺物

表3 SK-4・SK-5・SK-6 出土遺物観察表

図版番号	出土遺物	口徑(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	底面	外面	内面	備考
15-1	SK-4	10.4	6.9	3.5	右回転糸切り後すのこ底	回転ナデ	回転ナデ	
2	"	-	-	-	-	-	-	
17	SK-5	12.0	7.1	3.6	右回転糸切り後すのこ底	回転ナデ	回転ナデ	
20-1	SK-6	7.8	5.1	1.5	回転糸切り後すのこ底強め	"	"	
2	"	7.8	5.7	1.3	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
3	"	7.8	6.1	1.2	回転糸切り後すのこ底	"	"	
4	"	13.6	9.1	3.4	指頭押え	横ナデ	横ナデ	
5	"	-	6.4	現2.8	右回転糸切り	回転ヘラ削り	回転ナデ	
6	"	7.8	6.2	1.2	"	回転ナデ	"	
7	"	8.1	6.3	1.4	磨滅	"	"	
8	"	8.4	5.8	1.2	右回転糸切り	"	"	

## SK-7

造構 調査区の北西部、B-3グリッドのⅣ層上面で検出された。他の造構との切り合い関係はない。西側が調査区外のため長辺は不明であるが、短辺約0.8mの隅丸長方形であったと思われる。埋土は炭の混じった灰色砂質土と混じらない灰色砂質土の上下2層に大きく分かれる。

遺物 図示したものも含めて、土器片少量と鉄滓が出土しており、土器のなかには畿内産またはその模倣と思われる底部を糸切りによらないものもある。

## SK-8

遺構 調査区の南西部、B-7グリッドのⅧ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長径約0.8m、短径約0.5mの主軸方向をN-4°-Eとほぼ南北にとる橢円形で、確認面よりの深さは約20cmである。埋土は一層で、黒灰色粘質土である。

遺物 図示したものを含む土器多数の他、三足壙体部が出土している。

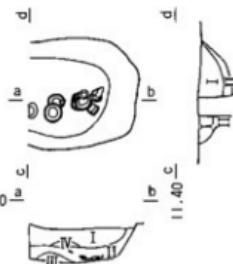


図21 SK-7 平断面及び遺物出土状況図

## SK-9

遺構 調査区の西部、B-3グリッドのⅧ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長辺約1.0m、短辺約0.5mの主軸をN-20°-Eの北東-南西にとる隅丸長方形で、確認面よりの深さは約40cmである。底面の南西部に直径約40cmのやや深い部分がある。埋土は上層の灰色粘質土と、下層の黒灰色粘質土の2層に大きく分かれる。

遺物 図示したものを含めて土器片が数点出土している。

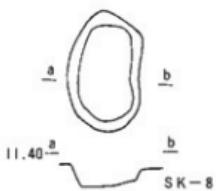


図22 SK-8 平断面図

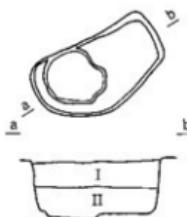


図23 SK-9 平断面図

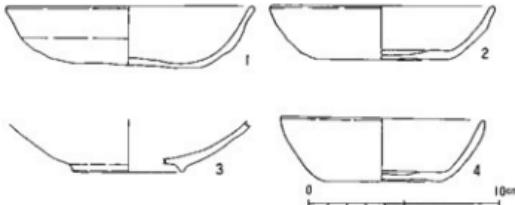


図24 SK-7・8・9 出土遺物

表4 SK-7・SK-8・SK-9 出土遺物観察図

四版 番号	出土遺構	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	底 面	外 面	内 面	備 考
24-1	SK-7	13.2	-	3.3	抑えとヘラ削り	横ナデ	ヘラ削り	
2	SK-8	11.6	6.0	2.9	回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
3	-	-	(5.8)	現2.8	-	"	"	
4	SK-9	10.6	6.3	3.3	右回転糸切り後すのこ痕	"	回転ナデ	

## SK-10

遺構 調査区の北東部、E-1・E-2グリッドのVII層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はないが、東側を試掘時の中央トレンチに切られる。長径70cm以上の楕円形であったと思われるが、プランを確認したのみで埋め戻した。

## SK-11

遺構 調査区の北東部、E-2グリッドのVII層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。直径約0.5mの円形のプランを確認したのみで埋め戻した。

## SK-12

遺構 調査区の北東部、E-2グリッドのVII層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。一辺約0.7mの隅丸方形であったと思われるが、プランの確認中に埋め戻した。

### (3) ピット

SP-1 調査区の西北部、B-1・B-2グリッドのVII層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約22cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-2 調査区の西北部、C-2グリッドのVII層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約10cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-3 調査区の西北部、B-2グリッドのVII層中で検出された直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約17cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-4 調査区の西北部、C-2グリッドのVII層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

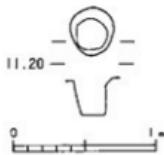


図25 SP-1 平断面図

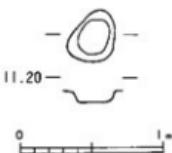


図26 SP-2 平断面図

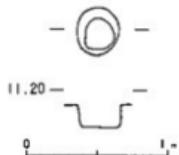


図27 SP-3 平断面図

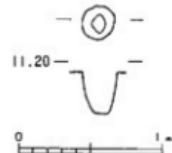


図28 SP-4 平断面図

SP-5 調査区の西北部、B-2 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約15cmである。埋土は二層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

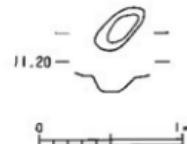


図29 SP-5 平断面図

SP-6 調査区の西北部、B-2 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-7 調査区の西北部、B-2 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約20cmである。埋土は一層で暗褐色である。遺物は出土していない。

SP-8 調査区の西北部、B-3 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約20cm短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約17cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-9 調査区の西北部、B-3 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で確認面よりの深さは約20cmである。

埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-10 調査区の西北部、B-3 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約60cm、短径約50cmの楕円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は二層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-11 調査区の西北部、C-3 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約21cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

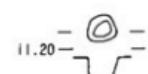


図31 SP-7 平断面図

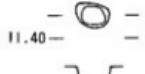


図32 SP-8 平断面図

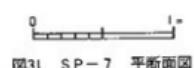


図33 SP-9 平断面図

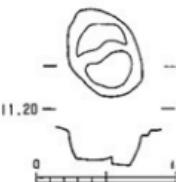


図34 SP-10 平断面図

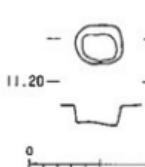


図35 SP-11 平断面図

SP-12 調査区の西北部、C-3 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-13 調査区の北部、C-3 グリッドのⅥ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-14 調査区の西北部、B-3 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約18cmである。埋土は二層に分かれ暗褐色土を主体とする。遺物は出土していない。

SP-15 調査区の中央部、C-3 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約55cmの円形で、確認面よりの深さは約35cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-16 調査区の西部、B-3 グリッドのⅥ層中で検出された。長径約50cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-17 調査区の西部、C-3 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は三層に分かれ暗褐色土を主体とする。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-18 調査区の中央部、C-3 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約50cm、短径約40cmの楕円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は図示したもののは他、土器片が少量出土している。



図36 SP-12・SP-13 平断面図

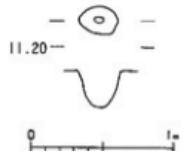


図37 SP-14 平断面図

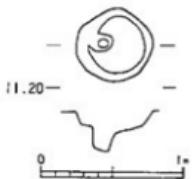


図38 SP-15 平断面図

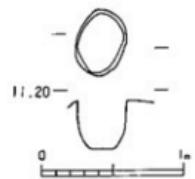


図39 SP-16 平断面図

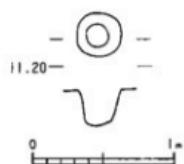


図40 SP-17 平断面図

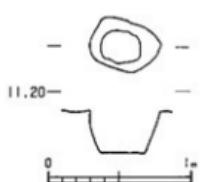


図41 SP-18 平断面図

SP-19 調査区の中央部、C-3グリッドのⅦ層中で検出された。一辺30cmの三角形で確認面よりの深さは約18cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-20 調査区の西部、C-3グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-21 調査区の西部、B-3・B-4グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-22 調査区の東北部、F-2グリッドのⅦ層中で検出された。南半部を削平されて全形は不明であるが、直径約30cmの円形であったと思われ、深さは残っている部分で約8cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-23 調査区の東北部、E-2グリッドのⅦ層中で検出された。直径約10cmの円形で、確認面よりの深さは約3cmである。埋土は二層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。

SP-24 調査区の北部、D-2グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

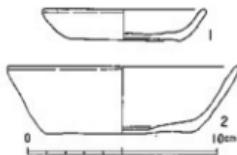


図42 SP-18 出土遺物

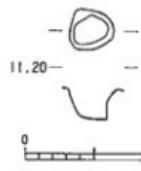


図43 SP-19 平断面図

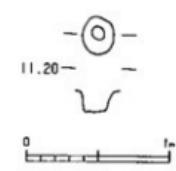


図44 SP-20 平断面図

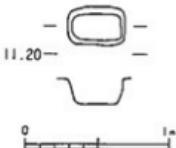


図45 SP-21 平断面図

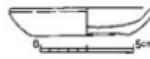


図46 SP-23 出土遺物



図47 SP-22 平断面図

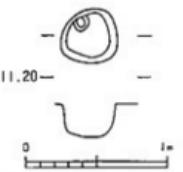


図48 SP-23 平断面図

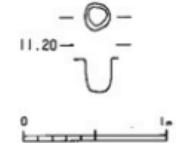


図49 SP-24 平断面図

SP-25 調査区の東北部、F-2 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埴土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-26 調査区の北部、D-2・D-3 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約15cm、短径約10cmの楕円形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-27 調査区の北部、D-3 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約50cmの円形で、確認面よりの深さは約13cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-28 調査区の北部、D-3 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約16cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-29 調査区の中央部、D-3 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約13cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-30 調査区の中央部、D-3 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-31 調査区の中央部、C-4 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約18cmである。埴土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

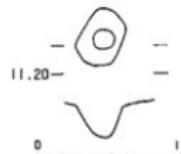


図50 SP-25 平断面図



図51 SP-26 平断面図

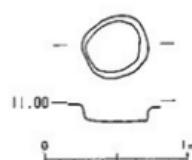


図52 SP-27 平断面図



図53 SP-28 平断面図

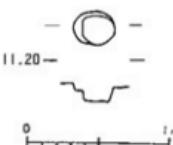


図54 SP-29 平断面図

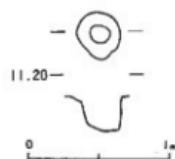


図55 SP-30 平断面図

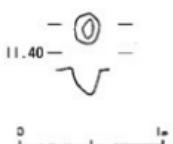


図56 SP-31 平断面図

SP-32 調査区の西部、B-4グリッドのⅧ層中で検出された。直径約21cmの円形で、確認面よりの深さは約21cmである。埋土は二層に分かれ暗褐色土を主体とする。遺物は図示したものその他、土器片が少量出土している。

SP-33 調査区の西部、B-4グリッドのⅧ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-34 調査区の西部、B-4グリッドのⅧ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約34cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-35 調査区の西部、C-4グリッドのⅧ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約15cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-36 調査区の西部、C-4グリッドのⅧ層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約17cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-37 調査区の西部、C-4グリッドのⅧ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-38 調査区の西部、C-5グリッドのⅧ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約16cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

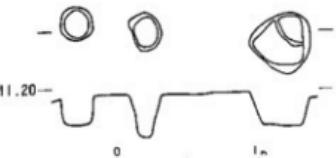


図57 SP-32・SP-33・SP-34 平断面図

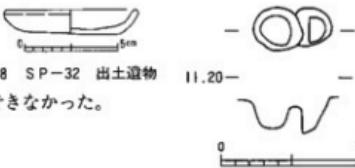


図58 SP-32 出土遺物

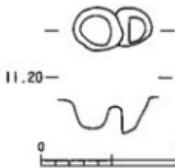


図59 SP-35・SP-36 平断面図



図60 SP-38 平断面図

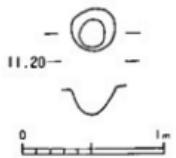


図61 SP-38 平断面図

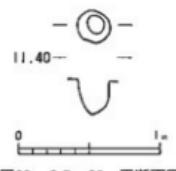


図62 SP-39 平断面図

示できなかった。

SP-39 調査区の中央部、C-5 グリッドのⅦ層中で検出された。直徑約25cmの円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-40 調査区の西部、B-5 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約50cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは32cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-41 調査区の西部、B-5 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-42 調査区の西部、B-5 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-43 調査区の西部、C-5 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約11cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-44 調査区の西部、C-5 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約10cmの円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-45 調査区の西部、B-5  
・ C-5 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約60cm、短径約50cmの楕円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は一層で

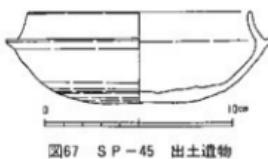


図67 SP-45 出土遺物



図63 SP-40 平断面図



図64 SP-41・SP-42 平断面図

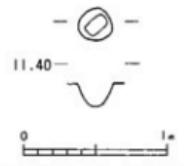


図65 SP-43 平断面図

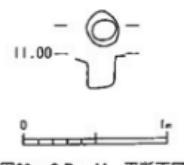


図66 SP-44 平断面図

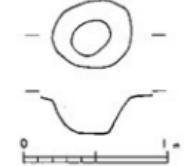


図68 SP-52 平断面図

暗褐色土である。遺物は図示した須恵器坏身が出土している。

SP-46 調査区の中央部、C-5 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約19cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

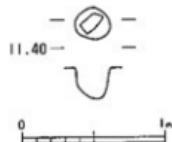


図69 SP-46 平断面図

SP-47 調査区の西部、B-5 グリッドのⅧ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約22cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。



図70 SP-47 平断面図

SP-48 調査区の西部、B-5 グリッドのⅧ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

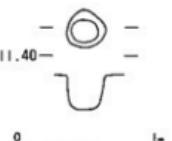


図71 SP-48 平断面図

SP-49 調査区の西部、B-5 グリッドのⅧ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-50 調査区の西部、B-5 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約31cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。



図72 SP-49 平断面図

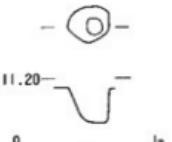


図73 SP-50 平断面図

SP-51 調査区の西部、B-5 グリッドのⅧ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約14cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

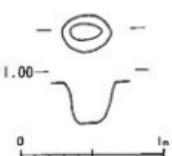


図74 SP-51 平断面図

SP-52 調査区の西部、C-5グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約31cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。



図75 SP-52 平断面図

SP-53 調査区の西部、C-4グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土の一層で暗褐色土である。遺物は図示したもの他、土器片が少量出土している。

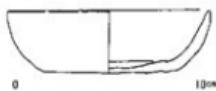


図76 SP-53 出土遺物



図77 SP-53 平断面図

SP-54 調査区の西南部、B-6グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-55 調査区の西南部、B-6グリッドのⅦ層中で検出された。一边約25cmの方形であったと思われ、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

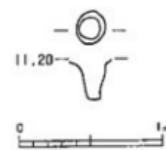


図78 SP-54 平断面図

SP-56 調査区の西南部、C-6グリッドのⅦ層中で検出された。直径約35cmの円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は三層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は出土していない。



図79 SP-55 平断面図

SP-57 調査区の西南部、B-6グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

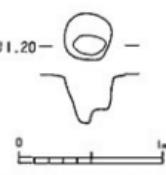


図80 SP-56 平断面図

SP-58 調査区の南部、C-6グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いず

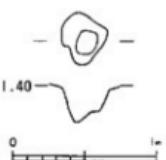


図81 SP-57 平断面図

れも細片で図示できなかった。

SP-59 調査区の西南部、B-6 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-60 調査区の西南部、B-6 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約22cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-61 調査区の西南部、B-6 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約31cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-62 調査区の南部、C-6 グリッドのⅧ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-63 調査区の南部、C-6 グリッドのⅧ層中で検出された。直径約50cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-64 調査区の西南部、B-6 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約45cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。

遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-65 調査区の西南部、C-6 グリッドのⅨ層中で検出

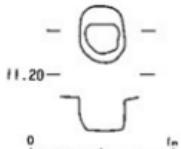


図82 SP-58 平断面図

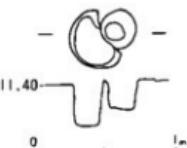


図83 SP-59・SP-60 平断面図

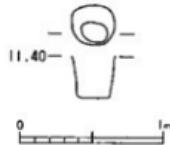


図84 SP-61 平断面図

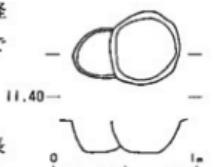


図85 SP-62・SP-63 平断面図

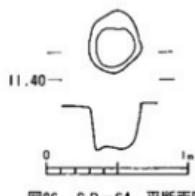


図86 SP-64 平断面図

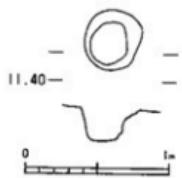


図87 SP-65 平断面図

された。長径約45cm、短径約40cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

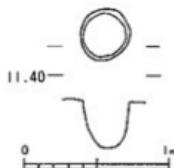


図88 SP-66 平断面図

SP-66 調査区の南部、C-6グリッドのVII層中で検出された。直径約35cmの円形で、確認面よりの深さは約35cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は図示したものその他、土器片が少量出土している。

SP-67 調査区の西南部、B-6・B-7グリッドのVII層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

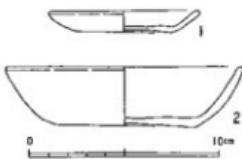


図89 SP-66 出土遺物

SP-68 調査区の中央部、D-4グリッドのVII層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約15cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。



図90 SP-67 平断面図

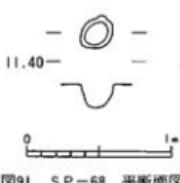


図91 SP-68 平断面図

SP-69 調査区の中央部、D-5グリッドのVII層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-70 調査区の東部、E-5グリッドのVII層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

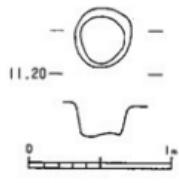


図92 SP-69 平断面図

SP-71 調査区の中央部、D-5グリッドのVII層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

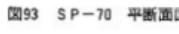


図93 SP-70 平断面図

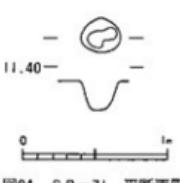


図94 SP-71 平断面図

SP-72 調査区の中央部、D-5 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約35cmの円形で、確認面よりの深さは約35cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-73 調査区の南部、D-6 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約50cm、短径約40cmの楕円形で確認面よりの深さは約30cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-74 調査区の東南部、E-6 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-75 調査区の南部、D-6 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約45cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-76 調査区の南部、D-6 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約45cmの円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-77 調査区の東南部、E-6 グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約48cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-78 調査区の西南部、C-7 グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋

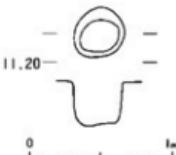


図95 SP-72 平断面図

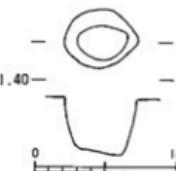


図96 SP-73 平断面図

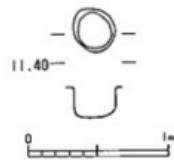


図97 SP-74 平断面図

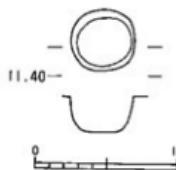


図98 SP-75 平断面図

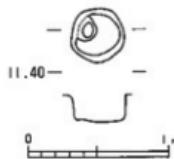


図99 SP-76 平断面図

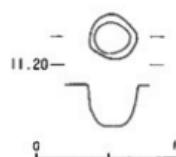


図100 SP-77 平断面図

図100 SP-77 平断面図

土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-79 調査区の南部、C-7・D-7グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約33cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

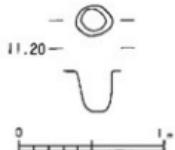


図102 SP-79 平断面図

SP-80 調査区の西南部、B-7グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約33cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

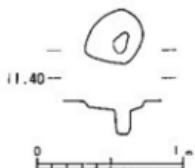


図103 SP-80 平断面図

SP-81 調査区の南部、C-7グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-82 調査区の西南部、B-7グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約9cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

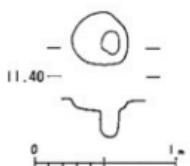


図105 SP-82 平断面図

SP-83 調査区の南部、C-7グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

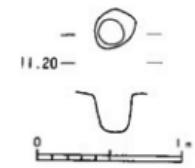


図104 SP-81 平断面図

SP-84 調査区の南部、C-7グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

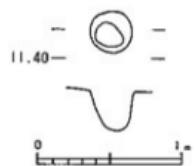


図106 SP-83 平断面図

SP-85 調査区の西南部、B-7グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で確認面よりの深さは約33cmである。埋



図107 SP-84 平断面図

土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-86 調査区の西南部、C-7グリッドのⅦ層中で検出された。直徑約25cmの円形で、確認面よりの深さは約37cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-87 調査区の西南部、C-7グリッドのⅦ層中で検出された。直徑約35cmの円形で、確認面よりの深さは約32cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP-88 調査区の西南部、C-7グリッドのⅧ層中で検出された。長徑約35cm、短徑約30cmの楕円形で確認面よりの深さは約37cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-89 調査区の南部、D-7グリッドのⅧ層中で検出された。直徑約40cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-90 調査区の南部、D-7グリッドのⅨ層中で検出された。直徑約20cmの円形で、確認面よりの深さは約38cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-91 調査区の南部、D-7グリッドのⅩ層中で検出された。長徑約30cm、短徑約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約18cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-92 調査区の南部、D-7グリッドのⅪ層中で検出された。直徑約20cmの円形で、確認面よりの深さは約38cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

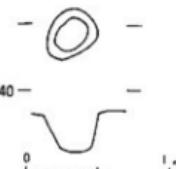


図108 SP-85 平断面図

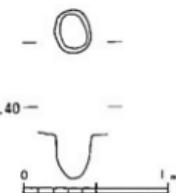


図109 SP-86 平断面図

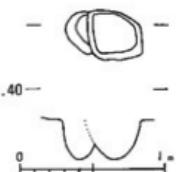


図110 SP-87・SP-88  
平断面図

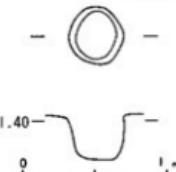


図111 SP-89 平断面図

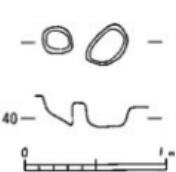


図112 SP-90・SP-91  
平断面図

色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

SP-93 調査区の南部、D-7グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも線片で図示できなかった。

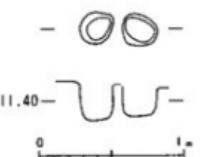
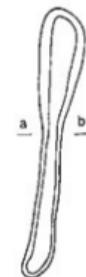


図113 SP-92・SP-93  
平衡面図

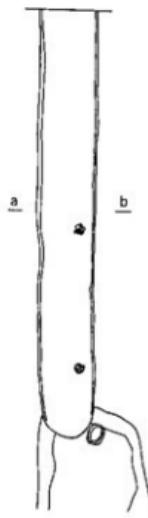
#### (4) 溝

SD-1 調査区の中央部、C-4・5グリッドのⅢ層中で検出された。長さ約2.6m、最大幅約45cmであるが、浅く、遺構精査時に消失した。



11.40 I II

SD-2 調査区の北部、C-3、D-3グリッドのⅦ層中で検出された。他の遺構との切り合いはない。長さ約1.9m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約5cmで、N-5°-Eとほぼ南北に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。図114 SD-4 平断面図



SD-3 調査区の南西部、B-6・7グリッドのⅦ層上面で検出された。SP-82に切られる。長さ約4.8m、最大幅約160cm、確認面からの深さ約15cmで、N-10°-Eとほぼ南北に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は図示した土器の他、土器片が多数出土している。

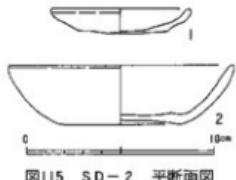


図116 SD-3 出土遺物

SD-4 調査区の北部、C-1・2グリッドのⅦ層中で検出された。SK-5を切る。長さ約3.0m、最大幅約40cm、確認面からの深さ約10cmで、N-2°-Wとほぼ南北に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は出土していない。

SD-5 調査区の北西部、B-3グリッドのⅣ層中で検出された。SP-9に切られる。長さ約2.0m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約30cmで、N-83°-Eとほぼ東西に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は出土していない。

SD-6 調査区の北西部、B-3グリッドのⅣ層中で検出され、西部が調査区外である。他の構造との切り合い関係はない。長さ約1.0m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約25cmで、N-65°-Eと北東-南西方向に走る埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。



図118 SD-6 平断面図

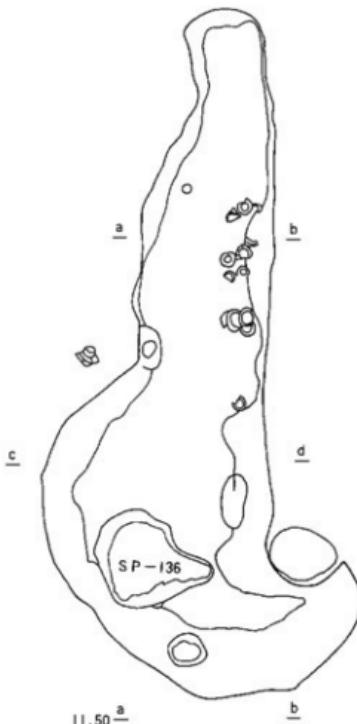


図117 SD-3 平断面図

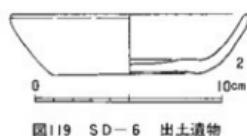


図119 SD-6 出土遺物

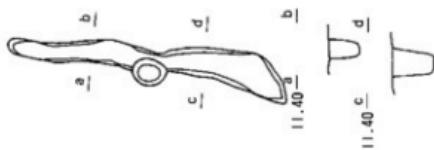


図120 SD-5 平断面図

SD-7 調査区の北西部、B-2、C-2グリッドのⅢ層中で検出された。SK-6に切られる。長さ約1.3m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約30cmでN-83°Wとはば東西に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

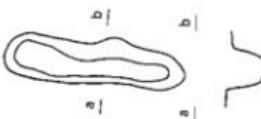


図121 SD-7 平断面図

表5 SP・SD出土遺物

回収番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	盤高(cm)	底面	外面	内面	備考
42-1	SP-18	8.5	6.0	1.7	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
2	"	12.1	7.8	3.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
46	SP-23	7.1	5.0	1.4	右回転糸切り	"	"	
58	SP-32	7.0	5.1	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
67	SP-45	11.8	—	4.9	回転ヘラ削り	"	"	
76	SP-53	10.7	7.1	3.3	右回転糸切り	"	"	
89-1	SP-66	7.8	5.2	1.3	右回転糸切り後磨滅	"	"	
2	"	12.4	6.4	3.2	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
115-1	SD-3	7.4	4.8	1.3	右回転糸切り後磨滅	"	"	
2	"	11.9	6.2	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
119-1	SD-6	7.8	5.5	1.4	"	"	"	
2	"	12.6	8.1	3.2	"	"	"	

### (5) 土器集積遺構

#### 1号土器集積遺構

遺構 調査区の北西部、C-1

グリッドのⅢ層上面で、完形の

土器の集中により検出された。

径約80mの範囲に集中している。

耕作土直下で検出されたため、  
B-1 C-1  
B-2 C-2

掘り込み等があったかどうかは

不明である。

遺物 図示したものを含め土器約20個体が出土している。

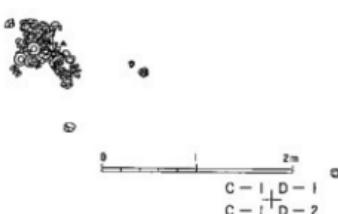


図122 1号土器集積遺構平面図

## 2号土器集積遺構

遺構 調査区の北東部、D-1・2、E-1・2、F-1・2グリッドのIII層上面で、多数の土器の出土により検出された。北部は調査区北壁断面にも土器が見られ、隣接する田地中に延びていると思われるが、東部は調査区東壁との境に無遺物区があり、調査区内に納まっている。また、2ライン南側、Fライン西側に設けられた試掘トレンチにより、調査時には3箇所に分かれていったが、元は一つで東西8m、南北5m以上の範囲に分布していたものと思われる。耕作土直下で検出されたため、掘り込み等があったかどうかは不明である。

遺物 図示したものを含め、土器数百個体が出土している。ほとんどが完形品で、割れたものも埋没後の土圧によると思われる。また、完形品であるにもかかわらず底面や体部に亀裂のあるものが多くあった。

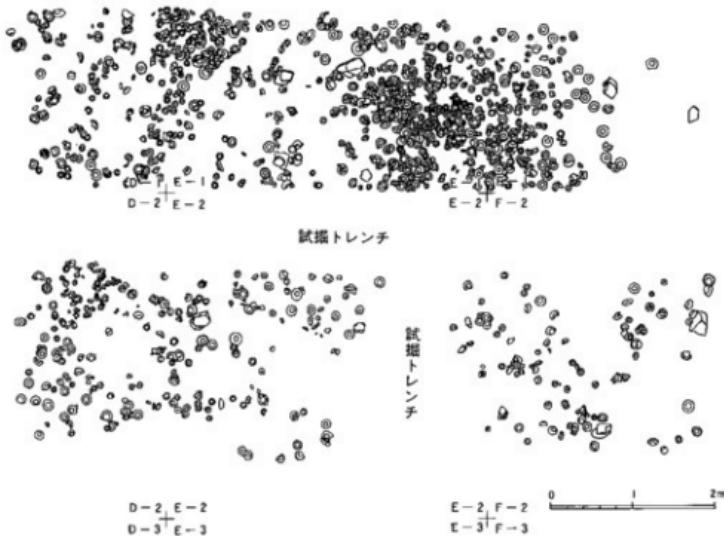


図123 2号土器集積遺構面図

### 3号土器集積遺構

遺構 調査区の西部、C-5・6グリ B-4 C-4  
B-5 C-5  
ツドのⅢ層上面で、完形の土器の出土に  
より検出された。南北約5m、東西約  
2mの範囲に比較的疎らに分布してい  
る。耕作土直下で検出されたため、掘  
り込み等があったかどうかは不明であ  
る。

遺物 図示したものを含めて土器約  
30個体が出土している。土器小皿のな  
かには、畿内産またはその模倣と思わ  
れる底面を糸切りによらないものもあ  
つた。

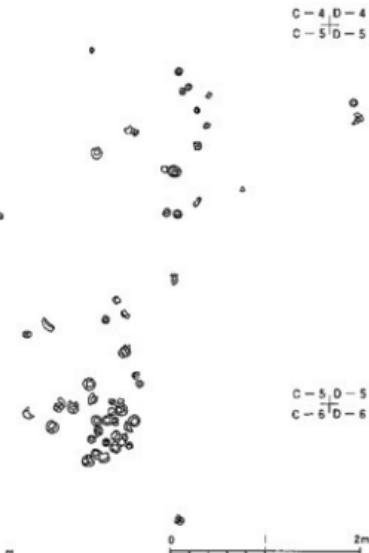


図124 3号土器集積遺構平面図

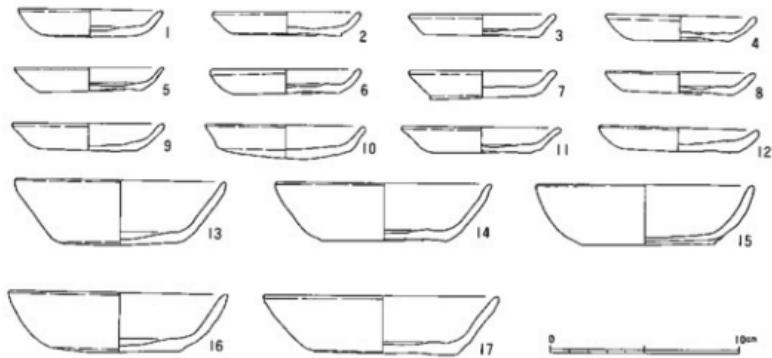


図125 3号土器集積遺構出土土器(C-5)

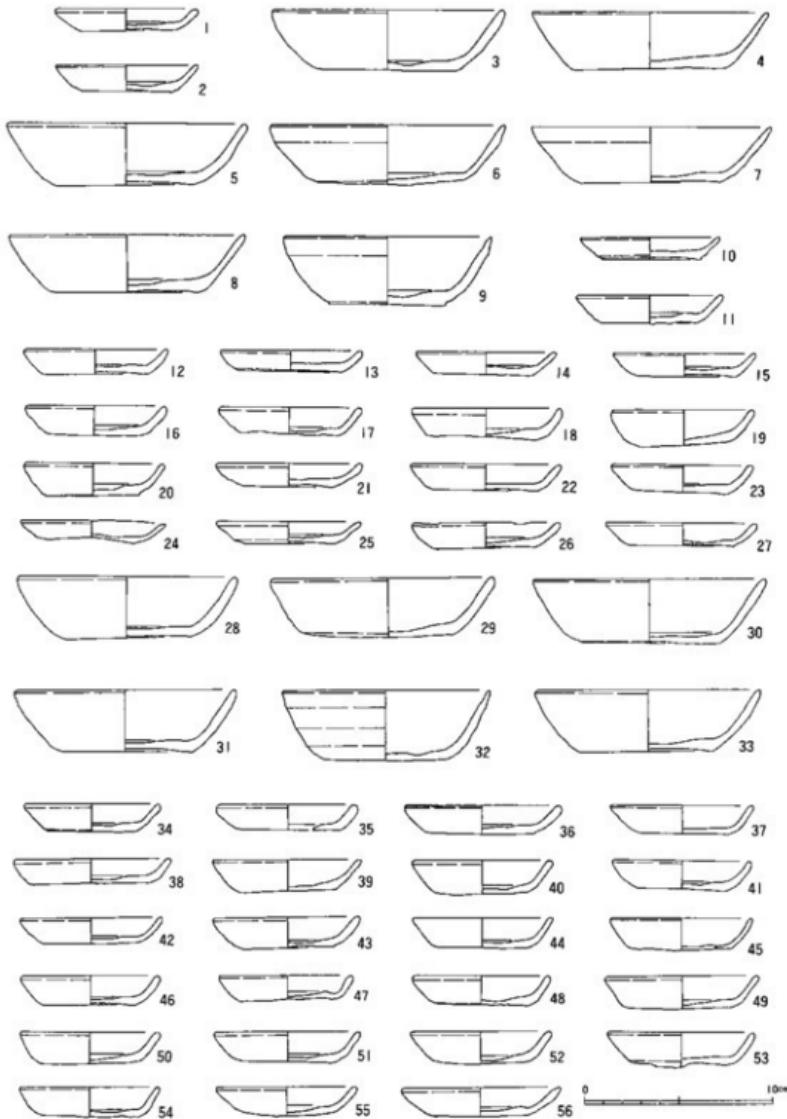


図126 I・2号土器集積遺構出土土器(C-I・C-2・D-I・D-2)  
(1-9・1号、10-56・2号)

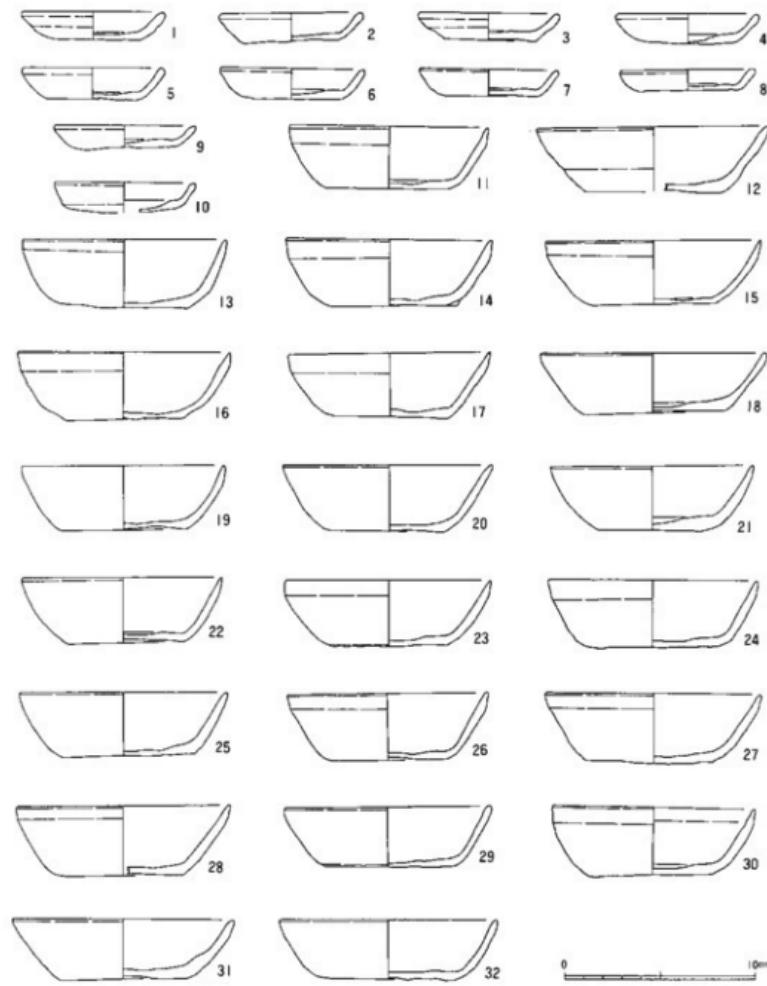


图127 2号土器集积层出土土器 (D-2)

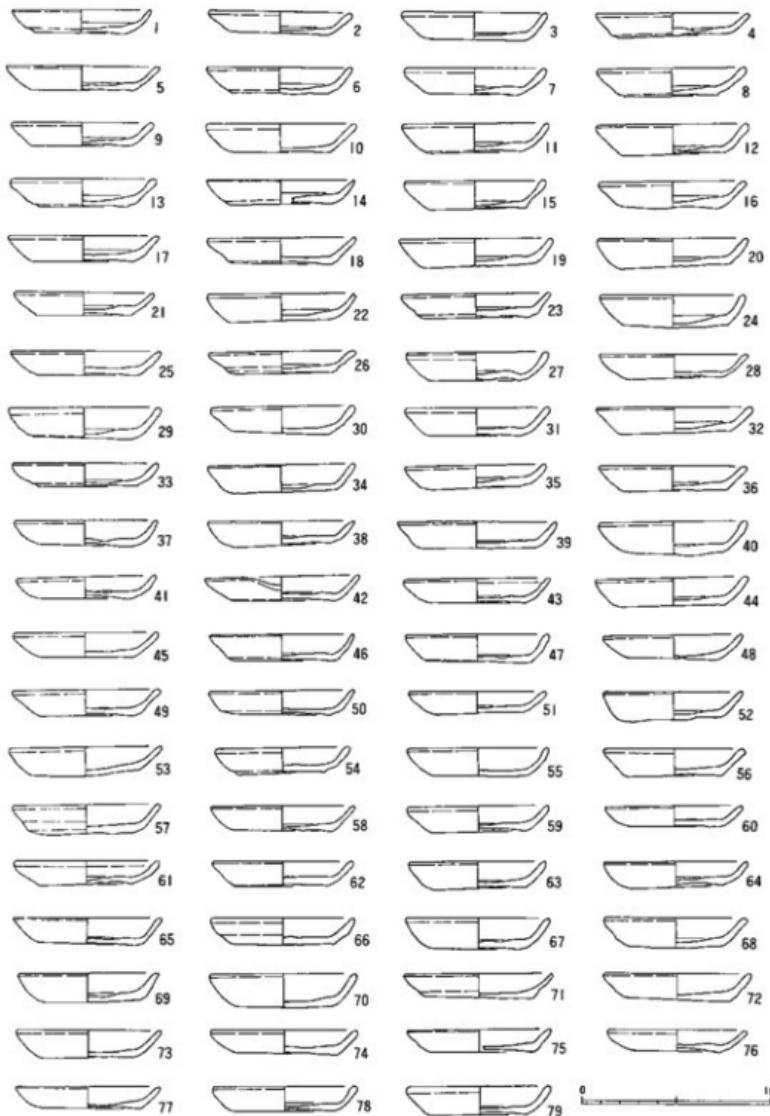


図128 2号土器集積構出土土器(E-I)

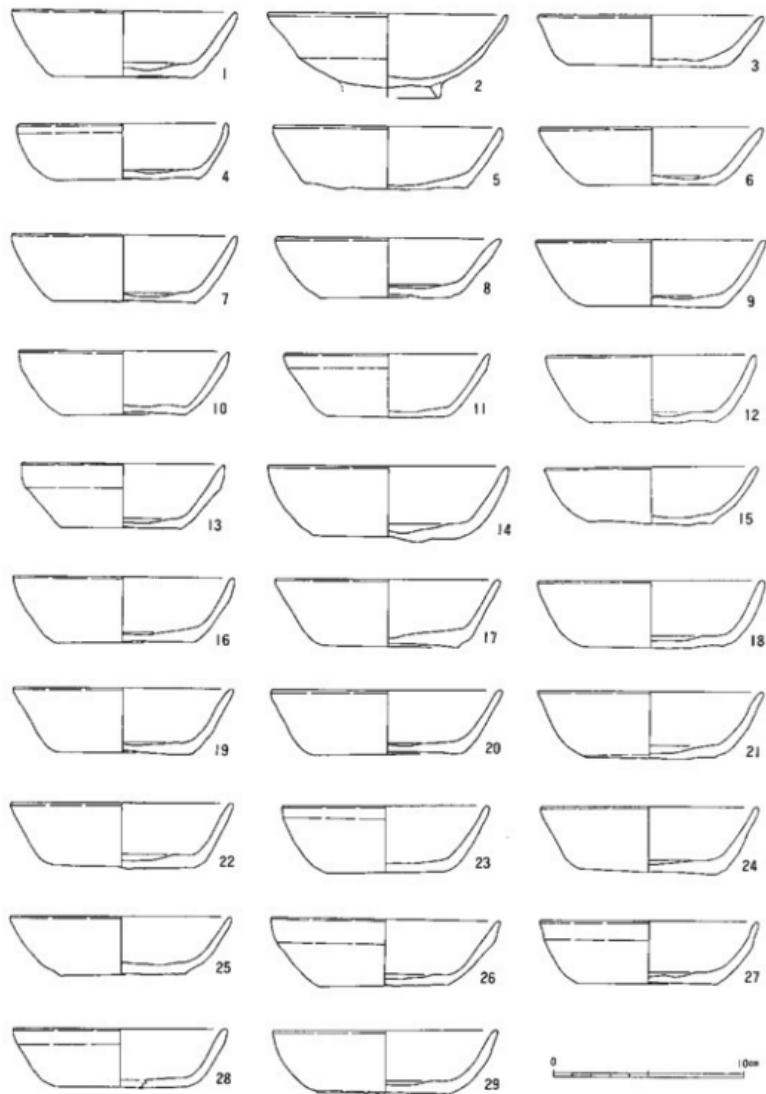


图129 2号土器集横道出土土器 (E-I)

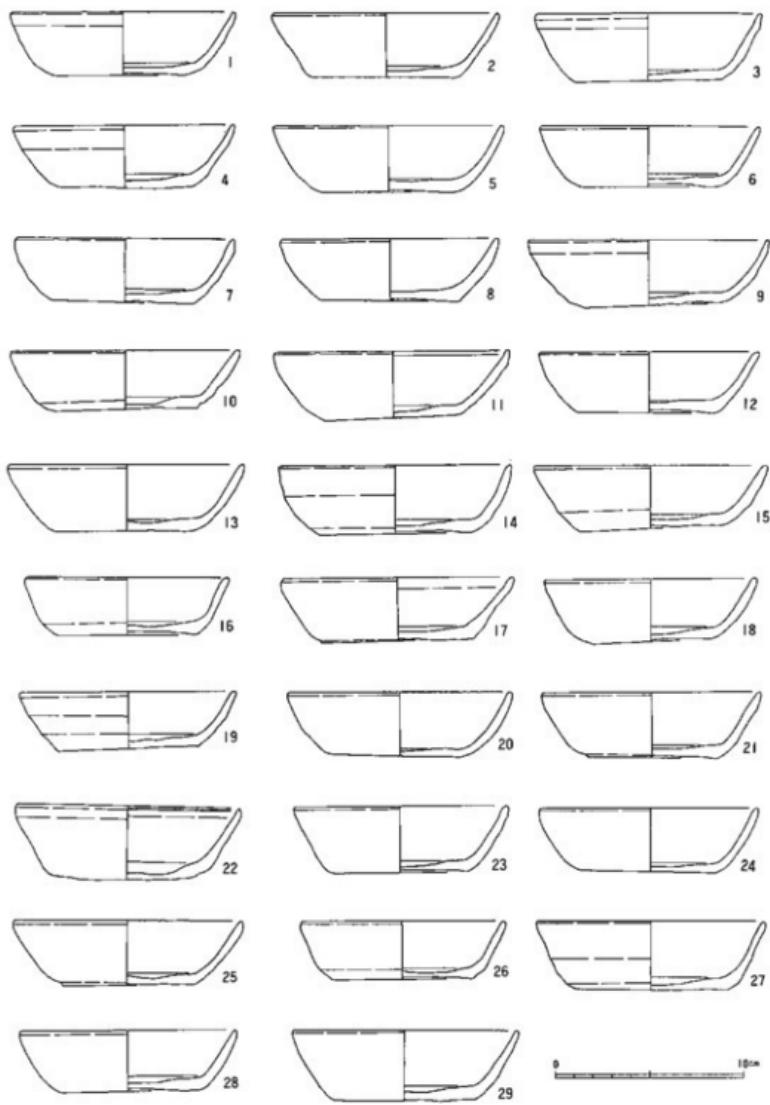


图130 2号土器集横造柄出土土器 (E-I)

表6 土器集積遺構出土遺物

図版号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	底面	外面	内面	備考
125-1	3号土器集積遺構(C-5)	7.4	5.5	1.5	回転条切り後磨滅	回転ナデ	回転ナデ	
2	"	7.6	5.5	1.3	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
3	"	7.7	6.1	1.1	"	"	"	
4	"	7.8	5.0	1.3	"	"	"	
5	"	7.8	5.4	1.2	"	"	"	
6	"	7.8	5.5	1.3	"	"	"	
7	"	7.8	5.6	1.5	"	"	"	
8	"	7.8	5.7	1.2	回転条切り後磨滅	"	"	
9	"	7.9	5.2	1.5	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
10	"	8.3	6.8	1.8	ナデ	ナデ	ナデ	
11	"	8.4	5.4	1.4	右回転条切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
12	"	8.4	6.2	1.3	"	"	"	
13	"	11.1	6.2	3.3	"	"	"	
14	"	11.4	6.7	3.4	"	"	"	
15	"	11.4	7.0	3.1	右回転条切り	"	"	
16	"	11.5	5.8	3.2	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
17	"	12.5	7.7	3.3	"	"	"	
126-1	1号土器集積遺構(C-1)	7.4	4.8	1.2	右回転条切り	回転ナデ	回転ナデ	
2	"	7.4	4.8	1.2	"	"	"	
3	"	12.3	7.2	3.4	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
4	"	12.4	8.2	3.2	右回転条切り磨滅	回転ナデ磨滅	回転ナデ磨滅	
5	"	12.6	7.1	3.2	右回転条切り	回転ナデ かなり磨滅	回転ナデ かなり磨滅	
6	"	12.4	7.8	3.4	右回転条切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
7	"	12.7	7.3	3.1	右回転条切り	"	"	
8	"	12.6	7.8	3.1	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
9	"	(11.1)	6.3	3.6	"	—	—	
10	2号土器集積遺構(D-1)	7.4	5.2	1.2	"	回転ナデ	回転ナデ	
11	"	7.6	5.6	1.5	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
12	"	7.6	5.2	1.3	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
13	"	7.4	5.6	1.2	右回転条切り後すのこ痕 と思われるが磨滅	磨滅	磨滅	
14	"	7.3	5.3	1.2	右回転条切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
15	"	7.5	5.2	1.3	"	"	"	
16	"	7.4	5.0	1.6	"	"	"	
17	"	7.4	5.4	1.5	"	"	"	
18	"	7.8	5.3	1.7	右回転条切り後板目	"	"	
19	"	7.4	5.0	2.0	回転条切り後ナデ	"	"	
20	"	7.4	5.0	1.8	右回転条切り後板目圧痕	"	"	
21	"	7.6	4.7	1.3	右回転条切り後すのこ痕	"	"	
22	"	7.8	5.6	1.4	右回転条切り後磨滅	"	"	

図版号	出土遺物	口径 (cm)	底深 (cm)	器高 (cm)	底面	外 面	内 面	備考
126-23	2号土器底部直角 (D-1)	7.4	4.9	1.5	右回転糸切り後磨滅	回転ナテ	回転ナテ	
24	"	7.7	4.6	1.2	右回転糸切り	"	"	
25	"	7.6	4.8	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナテ下端 回転ナテ下端	"	
26	"	7.8	5.4	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナテ	"	
27	"	7.9	5.2	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
28	"	11.5	6.7	3.4	"	"	"	
29	"	11.3	8.2	3.2	右回転糸切り後ナテ消される	"	"	
30	"	12.3	7.4	3.5	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
31	"	11.7	6.9	3.3	"	"	"	
32	"	(11.1)	(6.9)	3.7	右回転糸切り後板目	"	"	
33	"	11.7	7.1	3.3	右回転糸切り後すのこ	"	"	
34	(D-2)	7.2	4.8	1.5	右回転糸切り	"	"	
35	"	7.3	5.5	1.4	右回転糸切り後すのこ	"	"	
36	"	8.2	5.8	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
37	"	7.5	4.7	1.5	"	"	"	
38	"	8.3	6.3	1.4	"	"	"	
39	"	7.8	5.2	1.8	右回転糸切り後磨滅	"	"	
40	"	7.3	4.9	1.8	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
41	"	7.2	4.3	1.6	"	"	"	
42	"	7.5	5.0	1.4	右回転糸切り	"	"	
43	"	7.7	5.0	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
44	"	7.4	4.7	1.6	"	"	"	
45	"	7.4	5.2	1.7	右回転糸切り後 強めのすのこ痕	"	"	
46	"	7.3	4.8	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
47	"	7.1	5.3	1.8	一度底を抜いており、中心部す のこ痕、周辺部のみ糸切り痕残る	"	"	
48	"	7.1	4.7	1.7	右回転糸切り	"	"	
49	"	7.9	5.3	1.8	"	"	"	
50	"	7.4	5.3	1.7	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
51	"	7.6	4.8	1.7	右回転糸切り	"	"	
52	"	7.4	5.0	1.8	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
53	"	7.6	5.7	1.9	"	"	"	
54	"	7.3	5.2	1.6	"	"	"	
55	"	7.4	4.9	1.6	"	"	"	
56	"	8.3	5.1	1.5	"	"	"	
127-1	2号土器底部直角 (D-2)	7.4	4.7	1.5	"	"	"	
2	"	7.3	5.0	1.6	"	"	"	
3	"	7.2	4.8	1.6	"	"	"	
4	"	7.3	5.2	1.6	"	"	"	
5	"	7.3	4.8	1.7	右回転糸切り後磨滅	"	"	
6	"	7.5	5.2	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
7	"	7.2	4.8	1.4	右回転糸切り	"	"	

図版番号	出土遺物	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底面	外画	内面	備考
127-8	2号土器茎部遺構(D-2)	7.0	5.5	1.2	右回転糸切り後片側約 ががすのこ底へこむ	回転ナデ	回転ナデ	
9	"	7.3	4.8	1.3	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
10	"	7.4	6.4	1.6	ヘラ削り	"	"	
11	"	10.5	6.5	3.3	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
12	"	12.1	7.2	3.5	"	"	"	
13	"	10.7	6.8	3.7	"	"	"	
14	"	10.8	6.1	3.4	"	"	"	
15	"	11.4	6.6	3.4	"	"	"	
16	"	11.4	5.3	3.7	"	"	"	
17	"	11.2	6.0	3.5	右回転糸切り後一部磨滅	"	"	
18	"	10.8	7.4	3.3	磨滅	磨滅	"	
19	"	11.9	6.6	3.5	右回転糸切り後磨滅	回転ナデ	"	
20	"	10.8	6.1	3.6	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
21	"	10.9	5.7	3.5	"	"	"	
22	"	10.6	6.1	3.5	"	"	"	
23	"	10.9	6.2	3.5	"	"	回転ナデ後 ヘラミガキ	
24	"	10.9	7.9	3.6	"	"	回転ナデ	
25	"	11.0	6.1	3.5	"	"	"	
26	"	10.6	6.1	3.5	"	"	"	
27	"	11.2	6.7	3.7	"	"	"	
28	"	11.2	6.2	3.8	"	"	"	
29	"	10.9	6.9	3.2	"	"	回転ナデ後 ヘラミガキ	
30	"	10.6	6.5	3.8	"	"	回転ナデ	
31	"	11.6	6.7	3.3	"	"	"	
32	"	11.5	6.7	3.2	"	"	"	
128-1	2号土器茎部遺構(E-1)	7.3	5.0	1.3	"	"	"	
2	"	7.5	5.3	1.3	"	"	"	
3	"	7.6	5.5	1.5	"	"	"	
4	"	8.0	5.9	1.3	"	"	"	
5	"	7.1	5.3	1.3	"	"	"	
6	"	7.7	5.3	1.4	"	"	"	
7	"	7.4	4.8	1.4	"	"	"	
8	"	7.7	5.0	1.5	"	"	"	
9	"	7.5	5.4	1.3	"	"	"	
10	"	7.9	5.2	1.5	右回転糸切り後すのこ底 がかなりナデ消される	"	"	
11	"	7.6	5.1	1.5	右回転糸切り後磨滅	"	"	
12	"	7.8	5.4	1.7	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
13	"	7.7	4.8	1.6	"	"	"	
14	"	7.9	5.4	1.3	右回転糸切り	"	"	
15	"	7.4	5.1	1.5	回転糸切り後すのこ底で抹消	"	"	
16	"	7.6	5.2	1.5	右回転糸切り後すのこ底	"	"	

回転番号	出土遺構	口径(cm)	高さ(cm)	断面(cm)	底面	外面	内面	備考
128-17	2号土器集落遺構(E-1)	8.0	5.4	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
18	"	7.8	5.3	1.5	"	"	"	
19	"	8.0	5.3	1.6	"	"	"	
20	"	7.8	5.5	1.6	"	"	"	
21	"	7.4	5.1	1.3	右回転糸切り	"	"	
22	"	7.8	5.6	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
23	"	7.8	5.5	1.3	"	回転ナデ下端 回転ナラ削り	"	
24	"	7.6	5.5	1.7	"	回転ナデ	"	
25	"	7.9	5.5	1.3	"	"	"	
26	"	7.6	5.2	1.2	"	回転ナデ下端 回転ナラ削り	"	
27	"	7.5	4.7	1.5	"	回転ナデ	"	
28	"	7.8	5.2	1.3	"	"	"	
29	"	8.0	5.6	1.7	右回転糸切り後薄く粘土付着	"	"	
30	"	7.6	5.1	1.6	右回転糸切り後木目痕痕	"	"	
31	"	7.7	5.0	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
32	"	8.2	6.0	1.5	"	"	"	
33	"	7.7	5.3	1.3	"	"	"	
34	"	7.8	7.2	1.5	右回転糸切り	"	"	
35	"	7.4	4.8	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
36	"	7.7	5.5	1.4	"	"	"	
37	"	7.6	5.2	1.4	"	"	"	
38	"	7.8	5.1	1.4	"	"	"	
39	"	8.4	5.9	1.4	"	"	"	
40	"	7.8	5.3	1.8	"	"	"	
41	"	7.4	4.5	1.2	右回転糸切り	"	"	
42	"	8.2	5.2	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
43	"	7.7	5.1	1.3	右回転糸切り	"	"	
44	"	8.0	5.3	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
45	"	7.6	5.0	1.3	"	"	"	
46	"	7.6	5.0	1.4	右回転糸切り後回転ナデ	"	"	
47	"	7.6	5.6	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
48	"	7.3	5.0	1.3	"	"	"	
49	"	7.8	5.2	1.4	"	"	"	
50	"	7.7	5.1	1.3	"	"	"	
51	"	7.3	4.6	1.2	磨滅	"	"	
52	"	7.4	5.0	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
53	"	8.0	5.8	1.5	"	"	"	
54	"	7.1	4.7	1.4	右回転糸切り	"	"	
55	"	7.4	5.0	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
56	"	7.4	5.1	1.5	右回転糸切り後磨滅	"	"	
57	"	7.8	6.2	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	

図 版 号	出土遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底 面	外 面	内 面	備 考
128-58	2号土器基盤壙 (E-1)	7.6	5.3	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
59	"	7.4	5.0	1.4	右回転糸切り	"	"	
60	"	7.2	4.8	1.1	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
61	"	7.6	5.0	1.4	右回転糸切り後強めのすのこ痕	"	"	
62	"	7.5	5.0	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
63	"	7.2	4.9	1.5	右回転糸切り	"	"	
54	"	7.5	4.8	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
65	"	7.8	5.0	1.5	"	"	"	
66	"	7.6	5.3	1.4	"	"	"	
67	"	7.5	4.5	1.6	"	"	"	
68	"	7.4	5.0	1.6	右回転糸切り後磨消	"	"	
69	"	7.4	5.2	1.6	右回転糸切り後すの こ痕、底2度削り	"	"	
70	"	7.7	5.0	1.8	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
71	"	7.8	5.8	1.3	"	"	"	
72	"	7.6	5.6	1.5	"	"	"	
73	"	7.6	5.0	1.5	"	"	"	
74	"	7.8	5.5	1.3	"	"	"	
75	"	7.3	5.4	1.2	"	"	"	
76	"	7.2	4.5	1.2	右回転糸切り	"	"	
77	"	7.7	5.2	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
78	"	7.6	5.2	1.4	右回転糸切り後磨消	"	"	
79	"	7.5	5.2	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
129-1	"	11.8	7.5	3.5	"	"	"	
2	"	11.6	(4.9)	4.4	手持ちヘラ削り	上手回転ナデ 下手手持ちヘラ削り	ヘラミガキ	
3	"	11.8	8.2	2.7	磨 滅	磨 滅	磨 滅	
4	"	11.1	7.4	3.0	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
5	"	12.0	8.7	3.4	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
6	"	11.7	6.8	3.1	"	"	"	
7	"	11.9	7.5	3.5	"	"	"	
8	"	12.8	7.0	3.2	"	"	"	
9	"	11.0	7.2	3.5	"	"	"	
10	"	10.2	6.4	3.5	右回転糸切り後一部磨消	"	"	
11	"	11.8	6.3	3.4	"	"	"	
12	"	10.0	6.8	3.6	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
13	"	10.8	6.2	3.4	"	"	"	
14	"	12.8	7.8	4.0	"	"	"	
15	"	11.1	6.5	3.1	"	"	"	
16	"	11.7	7.4	3.6	"	"	"	
17	"	11.9	7.4	3.7	右回転糸切り	"	"	
18	"	11.8	7.3	3.7	右回転糸切り後すのこ痕	"	"	
19	"	11.6	7.2	3.5	"	"	"	

図版 番号	出土遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底 面	外 面	内 面	備 考
129-20	2号土器集落遺構 (E-1)	12.2	8.0	3.4	右回転糸切り後すのこ底	回転ナデ	回転ナデ	
21	"	11.8	6.9	3.5	"	"	"	
22	"	11.8	7.5	3.5	"	"	"	
23	"	10.9	6.3	3.6	"	"	"	
24	"	11.3	7.3	3.6	すのこ底にて磨消	"	"	
25	"	11.7	6.6	3.1	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
26	"	12.1	6.9	3.7	右回転糸切り後 細かめのすのこ底	"	"	
27	"	11.4	7.3	3.4	右回転糸切り	"	"	
28	"	11.2	6.2	3.1	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
29	"	11.8	7.0	3.4	"	"	"	
130-1	"	11.7	7.0	3.4	"	"	"	ヘラミガキ
2	"	11.9	7.6	3.4	"	"	"	回転ナデ
3	"	11.8	7.6	3.6	"	"	"	
4	"	11.8	7.2	3.4	"	"	"	
5	"	12.2	7.3	3.6	"	"	"	
6	"	11.4	6.9	3.3	右回転中心糸切り	"	"	
7	"	11.7	7.7	3.4	右回転糸切り後磨消気味	"	"	
8	"	11.6	7.4	3.3	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
9	"	12.7	7.1	3.6	"	"	"	
10	"	12.2	7.7	3.3	右回転糸切り後すのこ底を磨消	"	"	
11	"	12.6	7.3	3.7	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
12	"	11.6	7.5	3.3	"	"	"	
13	"	12.5	7.3	3.5	右回転糸切り	"	"	
14	"	12.4	8.1	3.6	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
15	"	12.3	7.6	3.5	左回転糸切り後すのこ底を磨消	"	"	
16	"	10.7	7.4	3.1	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
17	"	12.3	8.3	3.5	"	"	"	
18	"	11.2	6.4	3.5	"	"	"	
19	"	11.5	7.5	3.1	"	3段の回転ナデ	"	
20	"	11.9	6.8	3.5	右回転糸切り後磨消	回転ナデ	"	
21	"	11.6	7.0	3.5	"	"	"	
22	"	12.0	7.5	3.9	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
23	"	11.4	7.2	3.5	"	"	"	
24	"	11.5	7.1	3.5	"	"	"	
25	"	12.3	7.2	3.6	右回転糸切り	回転ナデ下端 回転へラ削り	"	
26	"	10.8	7.5	3.2	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
27	"	12.0	8.0	3.8	"	回転ナデ後下半 回転へラ削り	回転ナデ後底部 右削りカキ目	
28	"	11.6	7.5	3.3	左回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
29	"	12.0	7.5	3.8	右回転糸切り後すのこ底	"	ナ デ	

#### (6) 造構外出土遺物

本遺跡では造構外からもテン箱約50個分の土器が出土しているが、ほとんどが細片で図示できなかった。ここでは、そのうちで比較的残りのよい土器及び、造構からの出土が稀であるか、または全くない高台付壺、瓦器壺、東播系須恵器鉢、管状土錐を取り上げた。この他に図示はしなかつたが、各所から鉄釘計約20本が出土している。

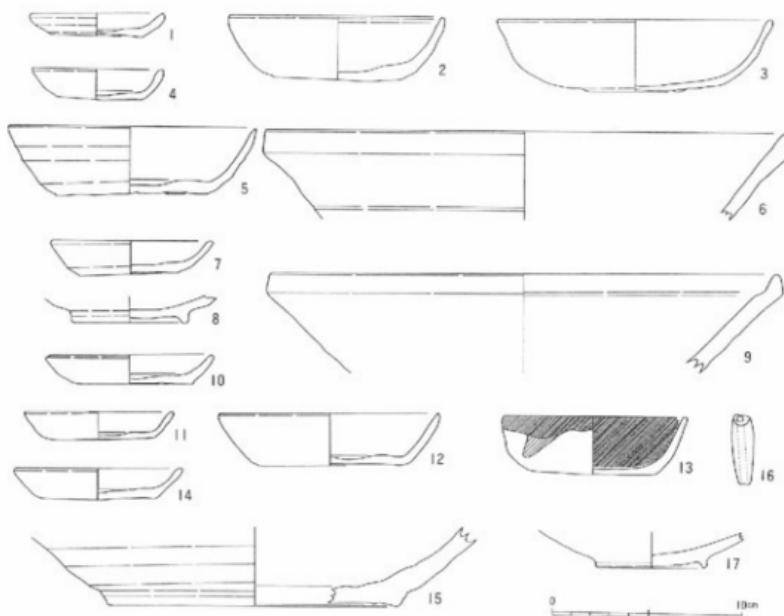


図13 造構外出土遺物

表7 造構外出土遺物

図版 番号	出土グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	底面	外面	内面	備考
131-1	B-1	7.1	4.8	1.3	右回転糸切り後すのこ底	回転ナデ	回転ナデ	
2	B-1	11.4	6.9	3.5	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
3	B-5	(14.4)	(4.8)	3.9	指頭押え	指頭押え	構ナデ	
4	C-4	6.9	4.3	1.7	右回転糸切り後磨滅	回転ナデ	回転ナデ	
5	C-7	12.9	7.9	3.7	右回転糸切り後すのこ底	"	"	
6	B-5	(27.5)	—	現高 4.7	—	"	"	
7	D-3	8.4	5.2	1.9	回転糸切り後すのこ底か磨滅	回転ナデと 思われるが磨滅	回転ナデと 思われるが磨滅	

8	D-3	—	6.0	現高 1.4	右回転糸切り	回転ナデ 下端回転ヘラ削り	回転ナデ	
9	D-5	26.8	—	現高 5.3	—	回転ナデ	〃	
10	D-6	8.6	6.0	1.6	回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
11	E-1	7.8	7.2	1.5	右回転糸切り	〃	〃	
12	E-1	11.6	7.6	2.9	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
13	E-2	9.5	6.5	3.1	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
14	E-6	8.8	6.1	1.7	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
15	F-2	—	(15.2)	現高 4.2	右回転糸切り	〃	〃	
16	北壁	現長 3.8	最高径 1.2	孔様 0.4	—	—	—	
17	中央トレンチ	—	高古様 5.6	現高 1.9	回転ヘラ削り	〃	〃	

## 第七章 考 察

以上のように本遺跡は大量の土器（かわらけ）の出土によって特徴づけられる遺跡である。愛媛県では古代から中世の土器の報告は散見されるものの注目されることは少なく、僅かに中野良一氏、宮本一夫氏によって編年が試みられているのみである。<sup>11)</sup>ここでは先ず、これらの先史的研究を振り返りつつ、本遺跡の土器の位置づけを考えてみたい。

中野氏は大量の中世遺物が出土した松山市の古照遺跡、今治市の中寺遺跡、古代末の良好な資料が出土した松山市の石井幼稚園遺跡の3遺跡の出土土器の編年を、共伴する搬入土器を手掛かりとして試みている。そのうちで土師器碗は10世紀代まで内面黒色処理されるが、11世紀代になるとその他に内外面黒色処理を施すものや、黒色処理を施さないロクロ成形のものや非ロクロ成形のものが出現し、12世紀代には高台が退化して、13世紀代には全く見られなくなるとしている。また土師器壺、皿はロクロ成形し底部回転ヘラ切りのものが、11世紀後半以後底部が回転糸切りのものに転換していくと推定されている。

一方、宮本氏は、自ら調査した鷹子・樽味の両遺跡の出土土器に中野氏の示した資料を加えて、道後平野における13~15世紀の土器を、古照遺跡SEO1、鷹子遺跡SD1・SD9、樽味遺跡SD1・SD2、樽味遺跡SD3・SK1の各遺構出土土器を示標とする4段階に編年し、底部が回転糸切りになった後の土師器壺、皿の口径が次第に縮少し、体部の立ち上がりが急になることを指摘している。

本遺跡の出土土器はその99%を口径12cm前後の壺形土器と口径8cm前後の皿形土器で占められ、搬入品の可能性のある一部の丸底のものを除いてすべて底面を回転糸切りするものである。これを中野氏の編年に当てはめれば11世紀終末以後となり、更に体部の丸みや立ち上がりの角度を宮本氏の編年表と比較すれば、13世紀前半とした古照遺跡SEO1段階以前のものとなる。しかしながら古照遺跡SEO1出土の壺は口径14cm程度、皿は口径9cm程度と本遺跡出土のものより大きく、直接に対比できるものではない。

ここで、本遺跡で出土した数少ない搬入遺物を見てみたい。瓦器椀は和泉型のものが少量出土しているが、造構に伴わず、また細片が多いため本遺跡出土の土器の年代を示唆する程度に止まるものであるが、尾上氏の分類ではIII-3類からVI-1類に当たり、十三世紀後半から十四世紀初頭に置かれている。<sup>3</sup> SK-6、SK-7で出土している底部が指頭押えによる丸底で口縁部が横ナデにより外反する坏は鶴柄俊夫氏によって坏Aの4類に分類され、平行する黒色土器では3類から5類の時期に当たるが、この下限年代が11世紀初頭と推定されている。しかし、伴出する土師器皿は僅かに底径が大きい他はSK-1出土のものと大差なく、SK-1で伴出する片口鉢は図示はできなかったが、口縁部が直線的な森田稔氏の分類で第Ⅳ期第2段階のものである。森田氏はこの段階を12世紀末葉～13世紀前半と推定しており、これは先の中野氏の年代観とはよく一致するが、鶴柄氏の年代観とは200年もの開きがある。本遺跡出土の畿内系と思われる土器が畿内産であれ、在地産であれ伝播に年単位の時間がかかるとは考えられず、このような土器が10世紀～11世紀初頭の短い時間幅で押さえられるものか検討が必要であろう。

以上、直接対比できる資料が少なく、年代を推定できる資料に乏しいが、特にSK-1出土の片口鉢の年代観から12世紀末～13世紀前半のものと推定される。しかし、これらの土器の法量を遺構毎に見ると坏の口径で10.4cm (SK-4) ~12.6cm (SD-6) 皿の口径で7.0cm (SP-32) ~8.5cm (SP-18) と差が見られ、個体差の可能性もあるものの、年代差に起因するものかもしれない。在地の土器の編年をしっかりと組み立てたうえで他地域との平行関係を考える必要があると思われるが後稿を期したい。

それではこのような本遺跡はどのような性格を持つのであろうか。まず目につくのは圧倒的な土器（かわらけ）の多さである。土器の個体数が、復元できたもので千個体近く、復元できないものを含めれば数千個体になると思われるのに対して、中世陶器の東播系片口鉢が底部で3個体分、瓦器椀が同5個体分、輸入陶器椀器は細片が少量出土したに過ぎない。これと共に気がつくのが、完形であるにもかかわらず、底部に亀裂を持ち、容器として用をなさない個体の多さである（写真図版参照）。土器の流通機構は不明であるが、仮に須恵器のような選別出荷が行われていたとすると、流通には乗らないものと思われる。更に、膨大な土器の出土量にもかかわらず、灯芯油痕や汚損などの明瞭な使用痕が見られるものが、SK-6出土の皿と包含層出土の坏の各1個体しかないことも特徴的である。以上の点からは、本遺跡が生産遺跡で恐らくは集積地であったことが考えられる。特にSK-1は上層から東播系こね鉢の破片、土師器場の破片が出土しているが、これを壊滅後の廃棄と見れば、土器焼成のための平窯であったと考えることもできる。粘土溜と考えられるSK-6の存在などもあり、SK-1が窯でなくても生産遺跡である可能性が非常に言いと思われるが何如であろうか。先学諸兄の御批判を待ちたい。

最後に、これまでに松山市立埋蔵文化財センターが所蔵する古代末～中世の土器のうちで管見に触れたものを掲げておく。今後法量による時期区分の可能性を探れるよう観察表も付載するので合わせて御活用願いたい。

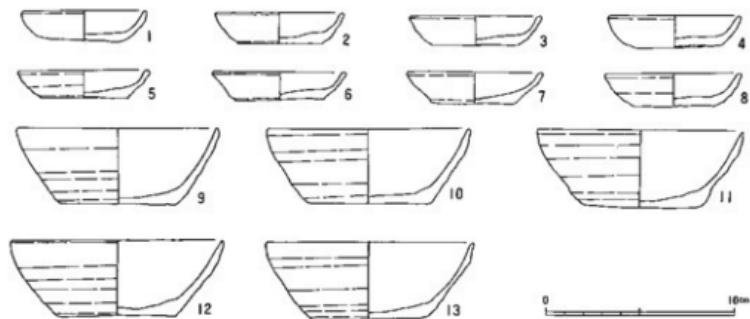


図132 煙寺竹ヶ谷遺跡出土遺物

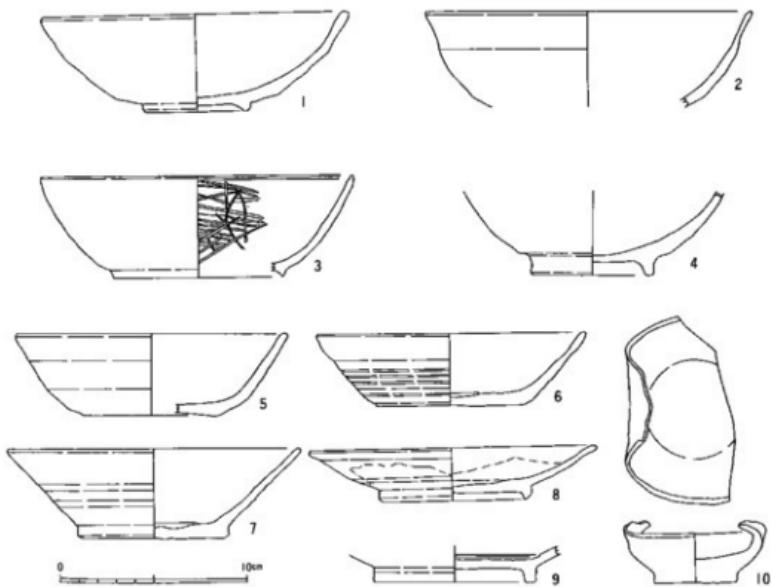


図133 石井幼稚園遺跡出土遺物(1)

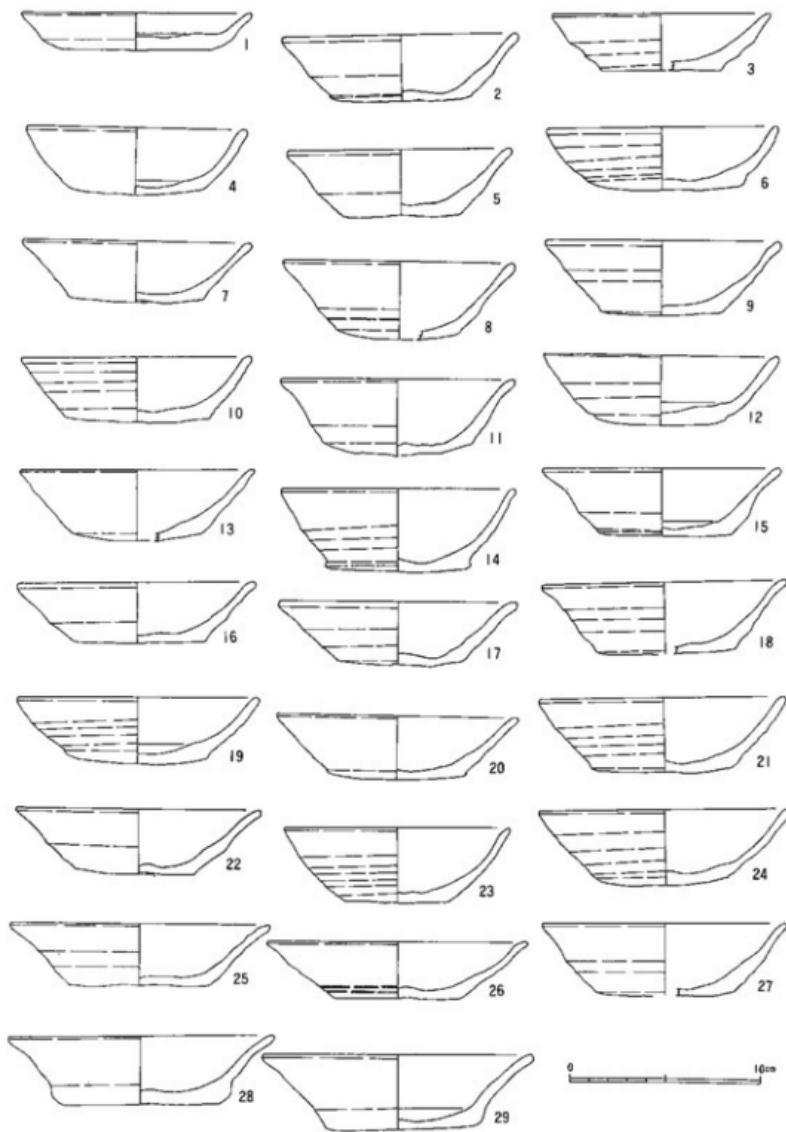


図134 石井幼稚園遺跡出土遺物(2)

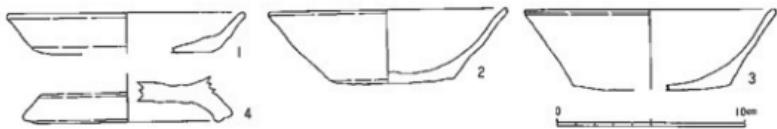


図135 梅殊四反地遺跡出土遺物

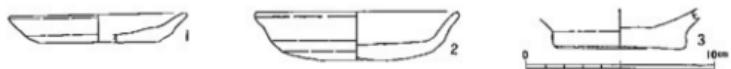


図136 古熙G遺跡第3次調査出土遺物

## 註

- 1) 例えば、松山市内では三島神社古墳や東山鶴ヶ森2・4・8号墳、斎院茶臼山などの古墳から盗掘時の遺棄と思われる資料が出土している他、来住庵寺、北久米遺跡、石井幼稚園遺跡、久万の台遺跡、古照G遺跡などからの出土が報告されている。
- 2) 中野 良一 1988「愛媛県における古代末から中世の土器」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ  
宮本 一夫 1989「遺後平野の中世土器編年」『鹿子・椎味遺跡の調査』
- 3) 尾上 実 1985「大阪南部の中世土器—和泉型瓦器柄—」『中近世土器の基礎研究』
- 4) 関根俊夫 1988「畿内における古代末から中世の土器—模倣系土器生産の展開」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ
- 5) 森田 稔 1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開—神出古窯址群を中心に—」『神戸市立博物館研究紀要』第3号

表8 煙寺竹ヶ谷遺跡出土遺物観察表

図版番号	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底面	外面	内面	備考
132-1	6.6	4.3	1.7	右回転糸切り後すのこ底	回転ナデ	回転ナデ	
2	6.8	4.5	1.6	回転糸切り(磨滅)	〃	〃	
3	6.9	4.4	1.5	右回転糸切り	〃	〃	
4	6.9	4.3	1.7	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
5	6.9	4.7	1.5	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
6	7.0	4.8	1.6	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
7	(7.0)	4.4	1.7	右回転糸切り(磨滅)	〃	〃	
8	7.0	4.3	1.8	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
9	(10.7)	6.2	4.1	右回転糸切り後すのこ底	〃	〃	
10	10.8	6.1	4.1	回転糸切り後すのこ底	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
11	10.8	6.0	4.1	回転糸切り後すのこ底	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
12	11.3	6.3	4.0	右回転糸切り	回転ナデ	〃	
13	11.1	5.7	4.1	右回転糸切り後すのこ底	回転ヘラ削り	〃	

表9 石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(1)

図版番号	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底面	外面	内面	備考
133-1	(16.1)	(5.5)	5.3	—	回転ナデ後、一割ヘラ削り	回転ナデ後ヘラ磨き	
2	(17.2)	—	5.1	—	上半 傷ナデ 下半 回転削えん	横ナデ	
3	(16.6)	(9.0)	5.4	—	—	ヘラ磨き	黒色土器
4	高台径 (6.4)	—	4.5	回転ナデ	横方向ヘラ削り	—	
5	(14.4)	(7.3)	4.3	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	須恵器
6	14.3	8.0	3.8	左回転糸切り	回転ナデ後 回転ヘラ削り	〃	〃
7	(15.6)	7.7	4.9	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	〃
8	15.2	7.4	2.9	〃	〃	〃	灰釉陶器
9	高台径 8.6	4.2	1.9	〃	回転ナデ	〃	綠釉陶器
10	此 程 (10.1)	—	3.2	右回転糸切り	〃	〃	〃

表10 石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(2)

団原番号	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底 面	外 面	内 面	備 考
134-1	(12.2)	7.6	2.0	回転ヘラ削り	上半 回転ヘラ削り 下半 回転ナデ	回転ナデ	
2	11.4	7.6	3.5	"	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
3	(11.5)	(6.2)	3.1	"	回転ナデ	"	
4	(11.5)	(7.2)	3.6	"	"	"	
5	(11.8)	(6.2)	3.6	ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
6	(12.0)	8.3	3.4	回転ヘラ削り	回転ナデ	"	
7	12.0	7.2	3.2	"	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
8	(12.1)	(6.5)	4.2	"	"	"	
9	(12.1)	6.3	3.9	すのこ底	"	"	
10	12.1	7.7	3.5	ヘラ削り	回転ナデ後 回転ヘラ削り	"	
11	(12.2)	(8.0)	4.1	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
12	(12.3)	(5.8)	3.8	"	回転ナデ	"	
13	(12.3)	(6.9)	3.7	"	"	"	
14	(12.3)	(7.8)	4.5	"	"	"	
15	12.4	7.1	3.7	"	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
16	12.5	6.9	3.2	"	"	"	
17	12.5	6.7	3.4	手持ちヘラ削り	"	"	
18	(12.5)	(7.2)	3.9	回転ヘラ削り	"	"	
19	12.7	7.4	3.6	"	回転ナデ	"	
20	(12.7)	7.5	3.5	回転ヘラ削り後すのこ底	"	"	
21	12.8	7.4	4.0	回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	"	"	
22	12.9	6.3	3.5	回転ヘラ削り後一方向へラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
23	(13.0)	(5.6)	4.0	回転ヘラ削り	回転ナデ	"	
24	13.2	6.9	4.0	回転ヘラ削り後一方向へラ削り	"	"	
25	(13.6)	(7.4)	3.3	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
26	13.8	6.5	3.2	"	"	"	
27	13.8	(7.2)	3.9	"	"	"	
28	(13.8)	6.3	3.8	回転ヘラ削り後すのこ底	回転ナデ	"	
29	14.2	8.1	4.2	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	

表11 椿味四反地遺跡出土遺物

135-1	(12.5)	9.0	2.1	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	回転ナデ	
2	12.6	6.7	3.9	"	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
3	(13.2)	8.3	4.3	"	"	"	
4	(4.7)	—	現高 2.4	"	回転ナデ	"	

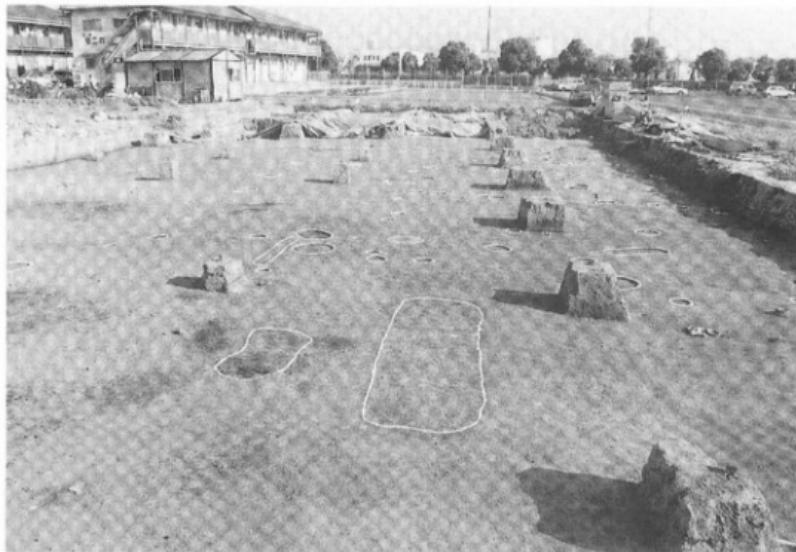
表12 古照G遺跡第3次調査出土遺物

136-1	(9.4)	(6.4)	1.5	ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	
2	(10.8)	(8.1)	2.6	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	"	
3	(6.8)	—	現高 2.1	"	回転ナデ	"	
4				(磨滅)			

# 図 版



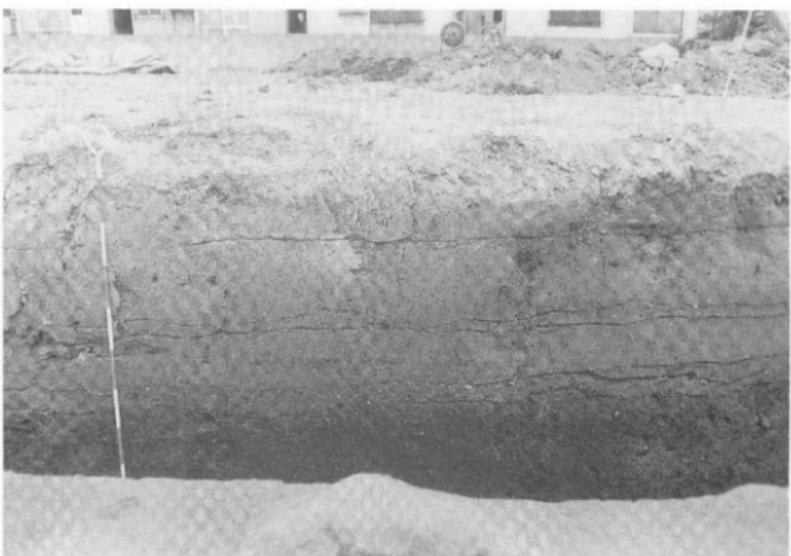
遺構検出状況（南西から）



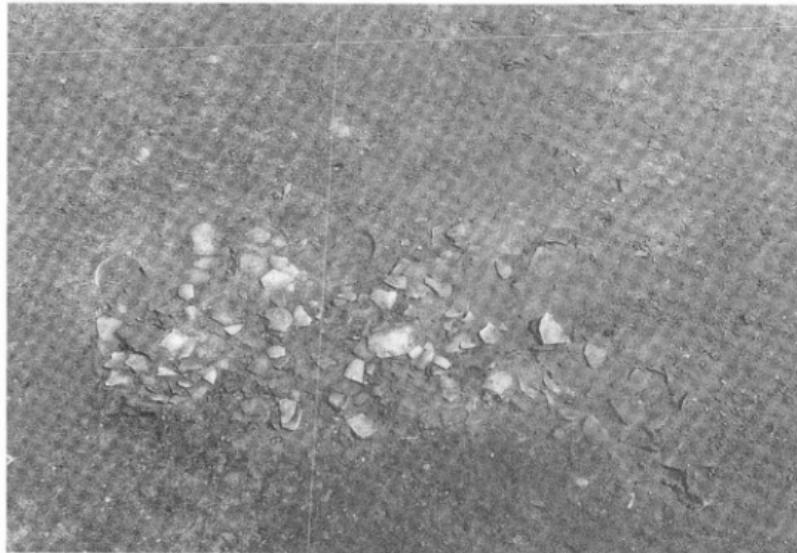
遺構検出状況（北から）



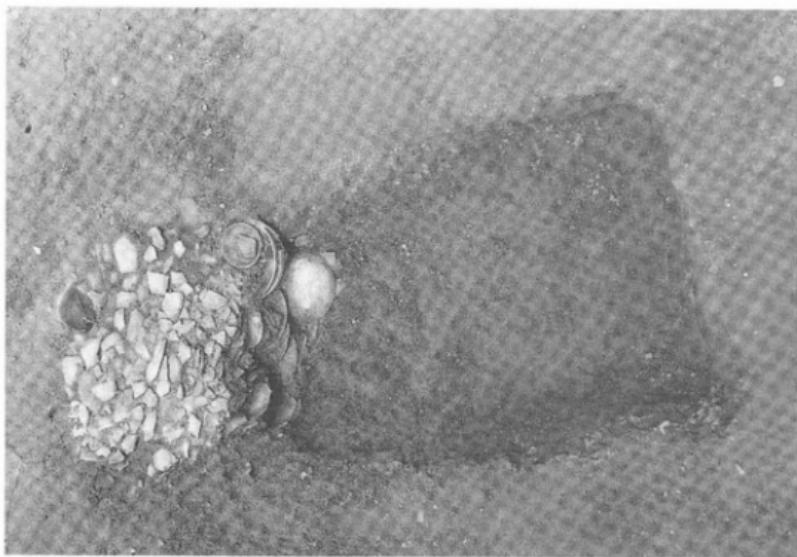
Cライン土層



東壁土層



SK-I 検出状況

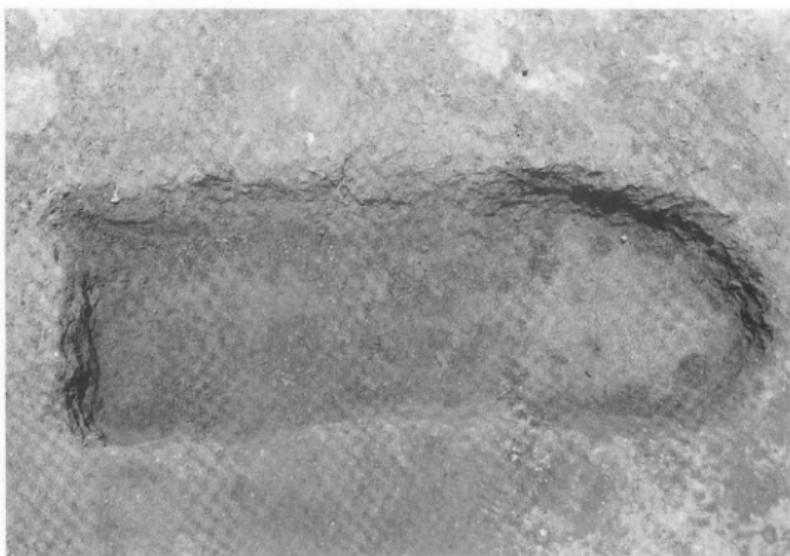


SK-I 半截状況

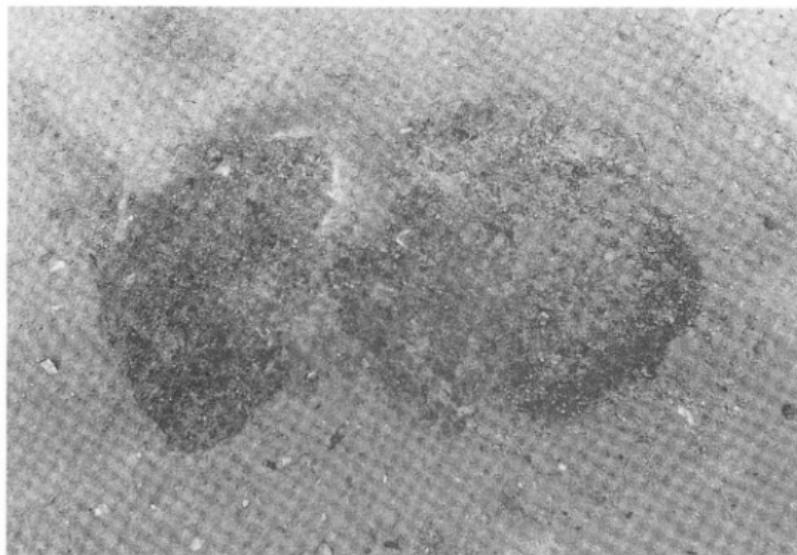
図版  
4



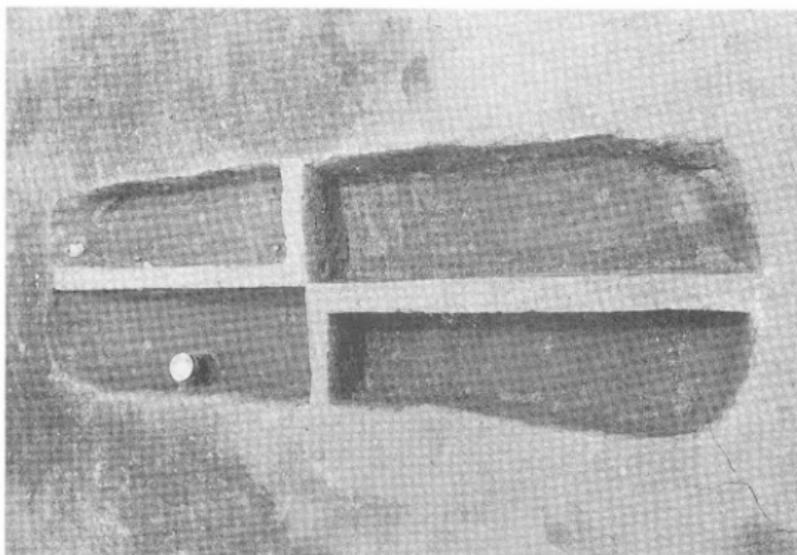
SK-I 断面



SK-I 堀り上り



SK-I 遺構検出状況



SK-I 調査状況



S P - 89 半截



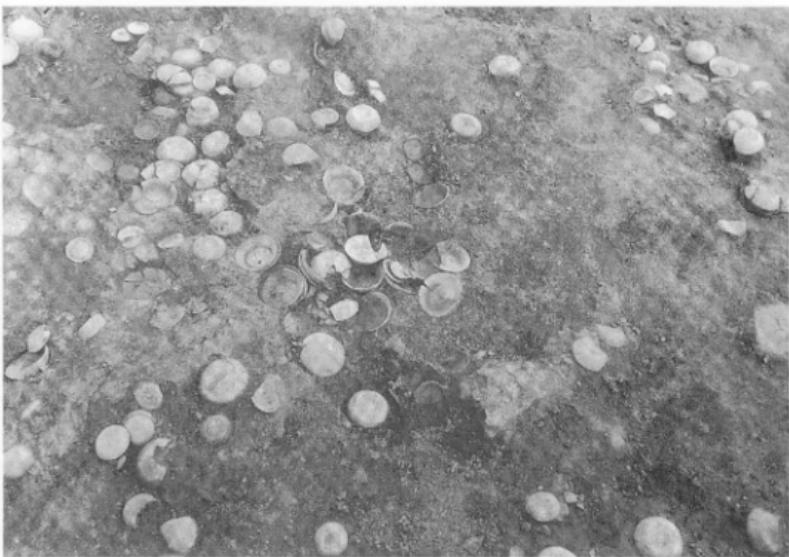
I号土器集積遺構



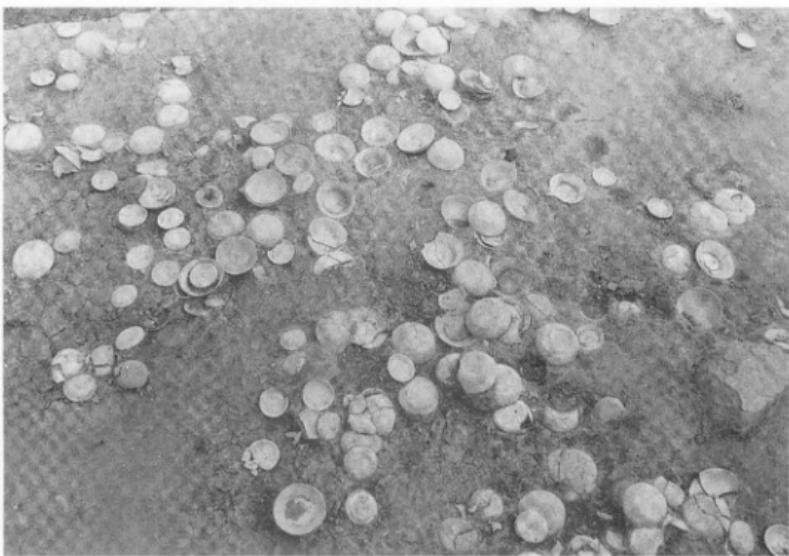
2号土器集積遺構



2号土器集積遺構



2号土器集積遺構拡大



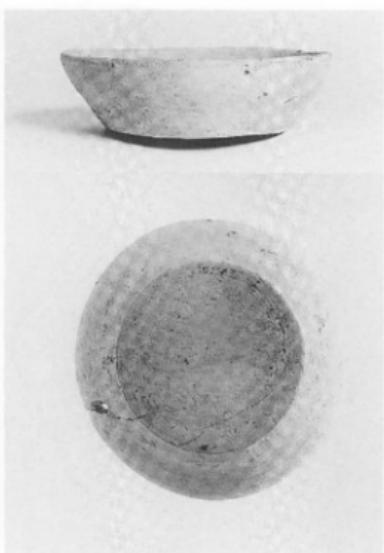
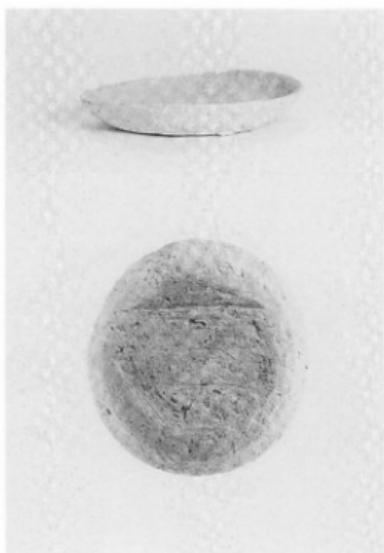
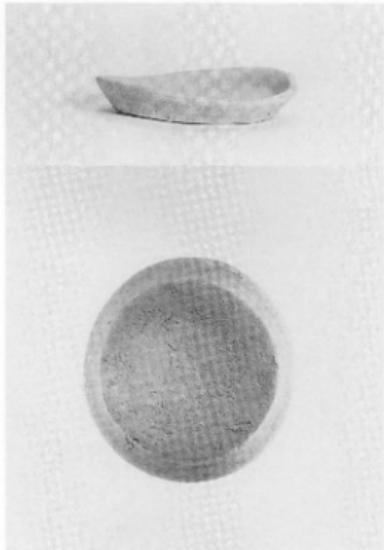
2号土器集積遺構拡大



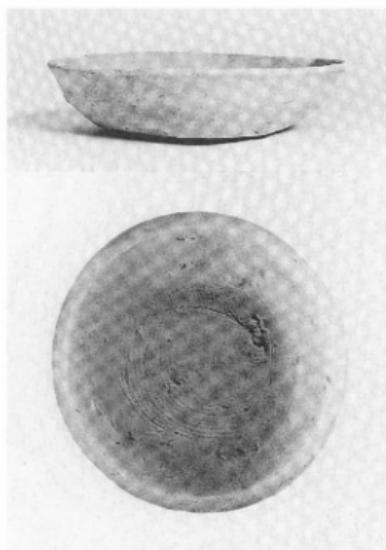
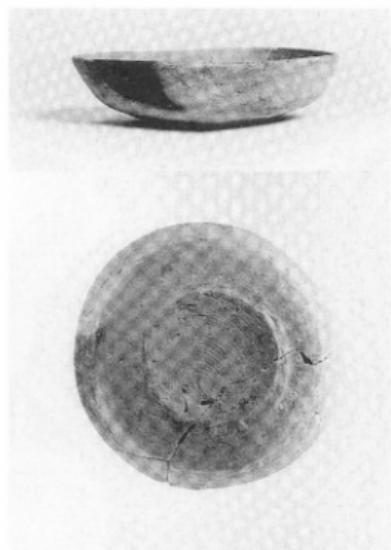
2号土器集積遺構



3号土器集積遺構



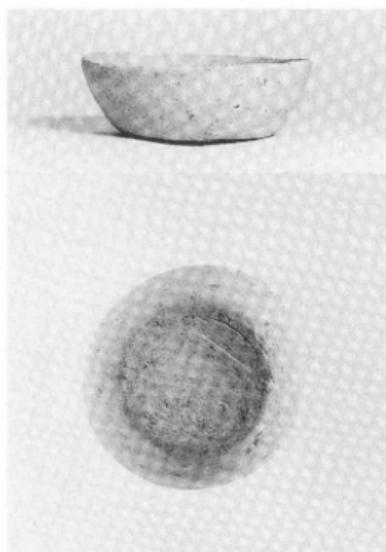
SK-I 出土かわらけ



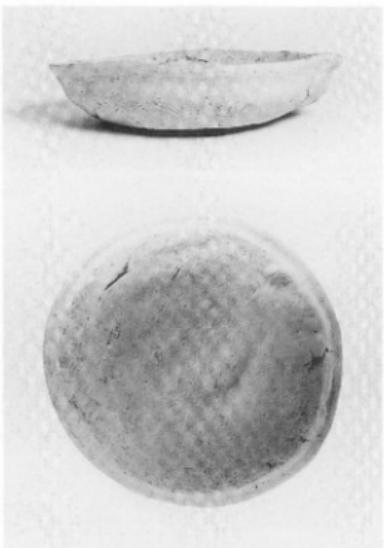
SK-1 出土かわらけ



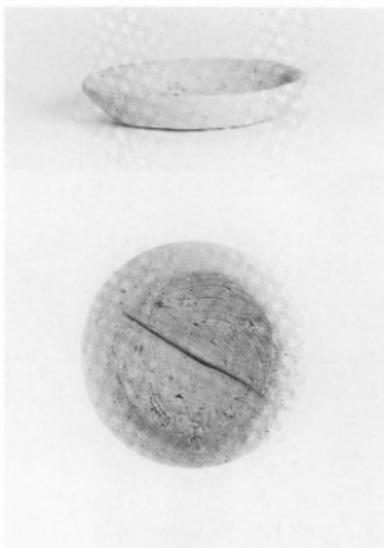
SK-1 出土かわらけ



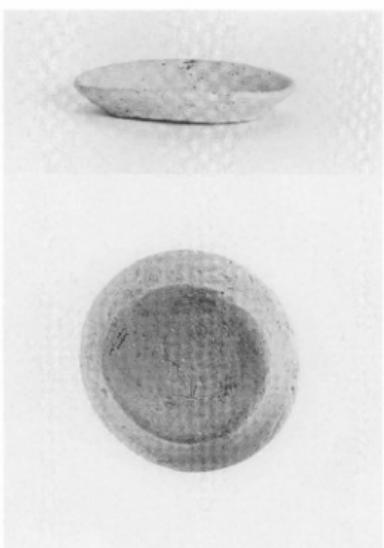
SK-4 出土かわらけ



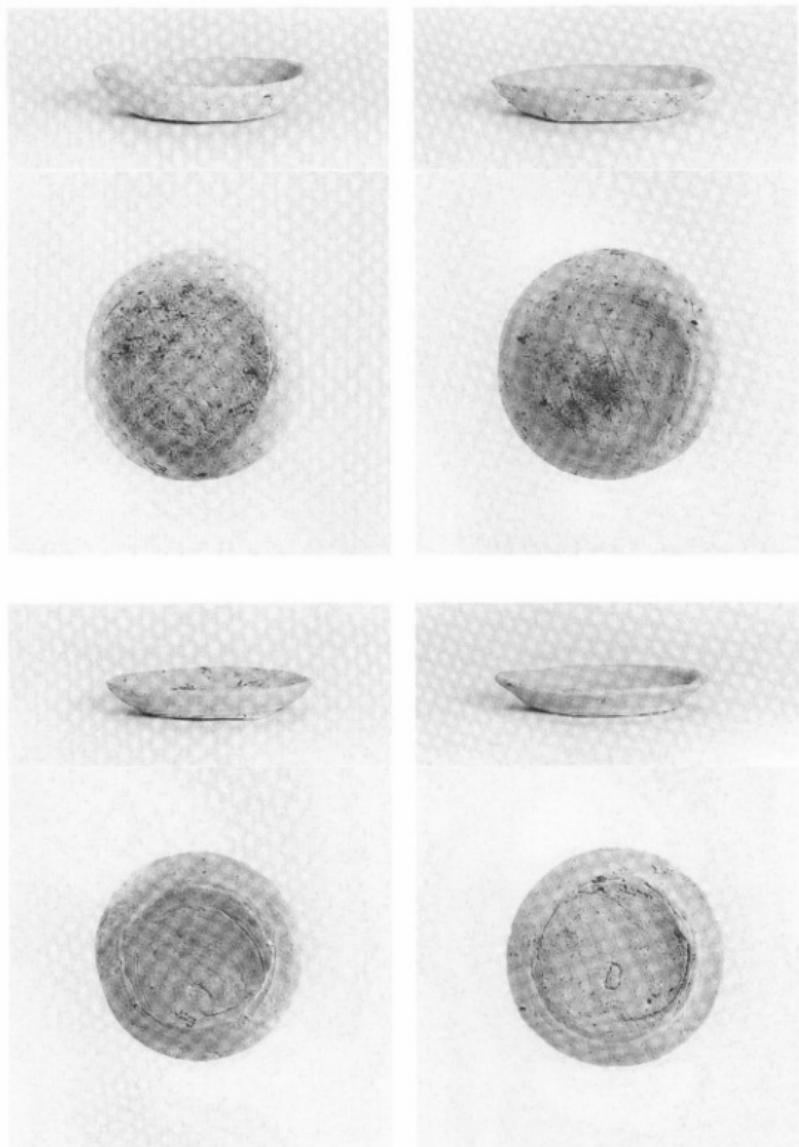
SK-7 出土かわらけ



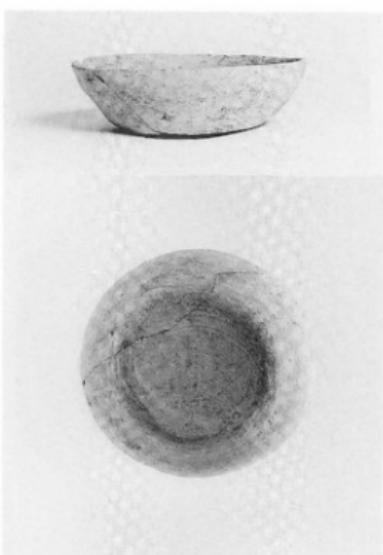
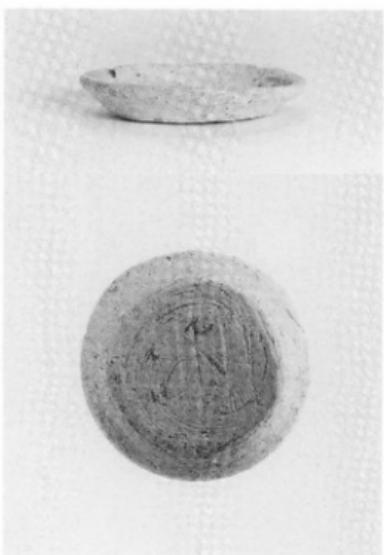
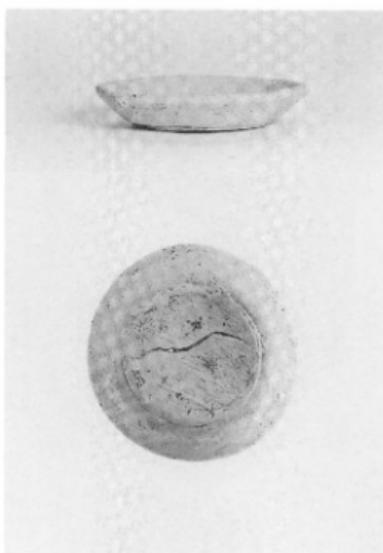
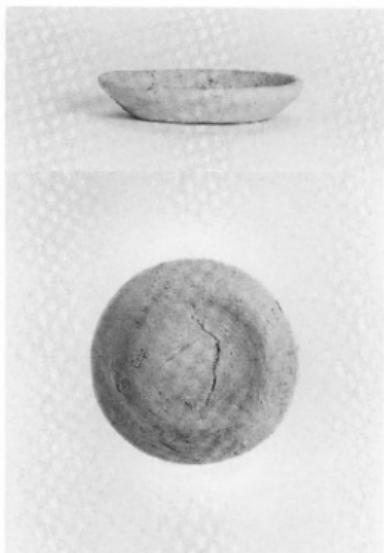
2号土器集積造構出土かわらけ



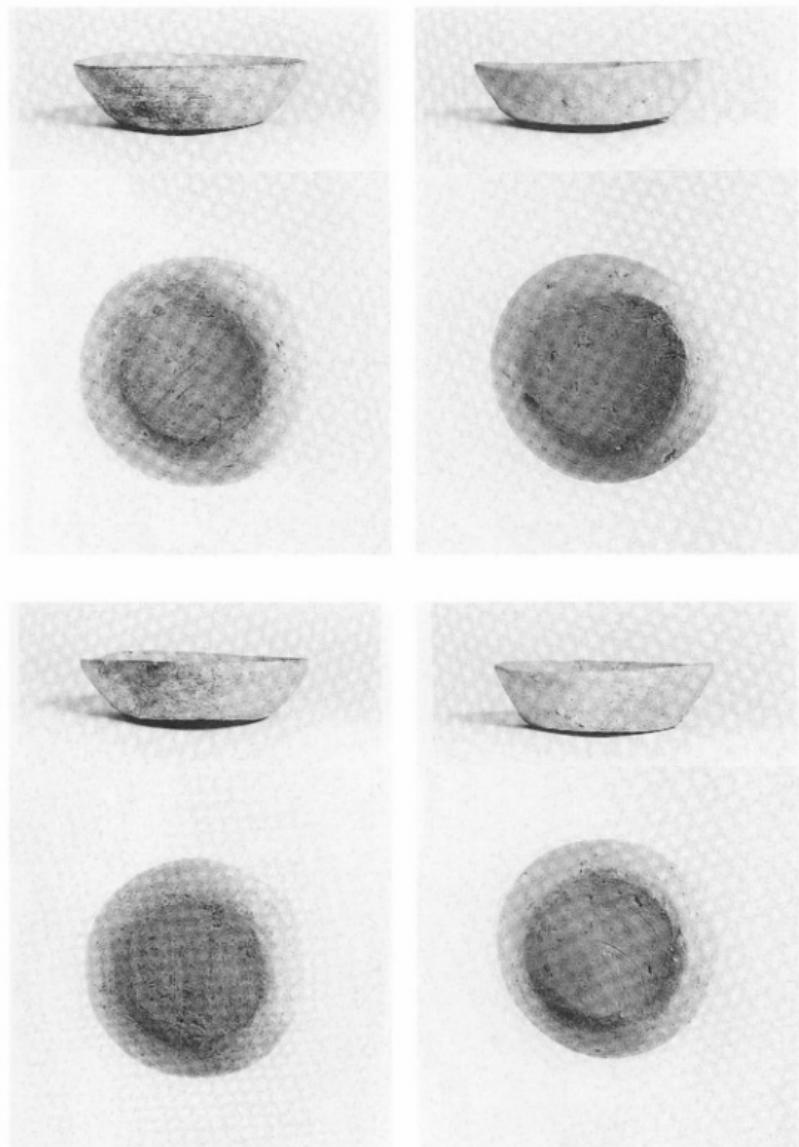
2号土器集積造構出土かわらけ



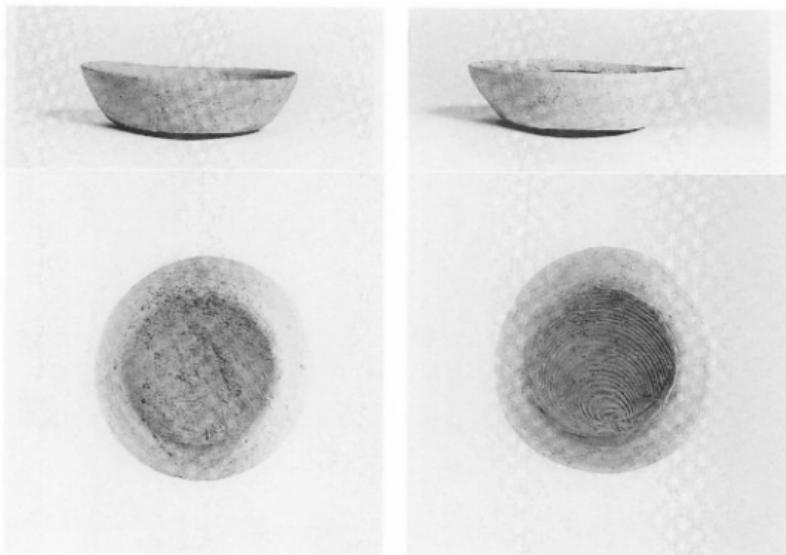
2号土器集積構造出土かわらけ



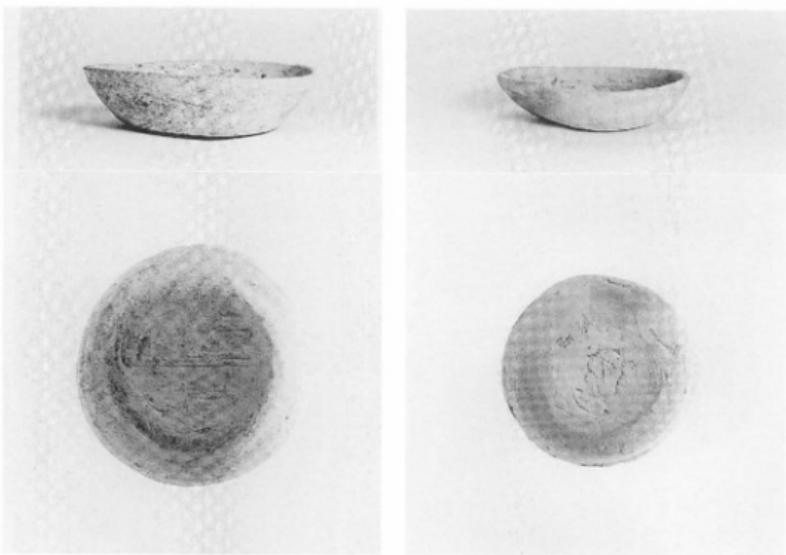
2号土器集積遺構出土かわらけ



2号土器集積遺構出土かわらけ

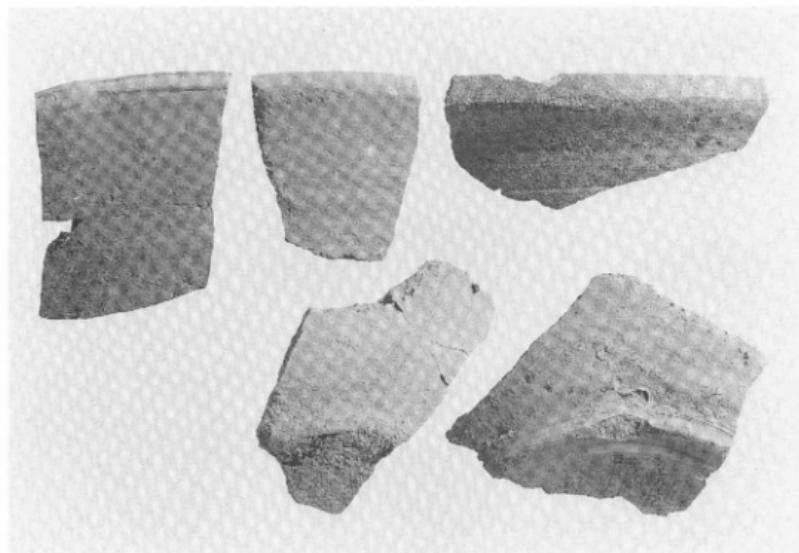


2号土器集積遺構出土かわらけ

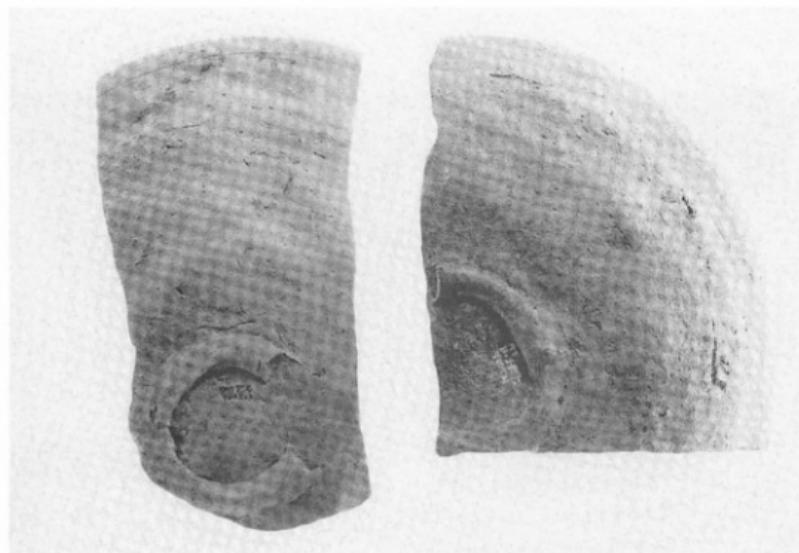


2号土器集積遺構出土かわらけ

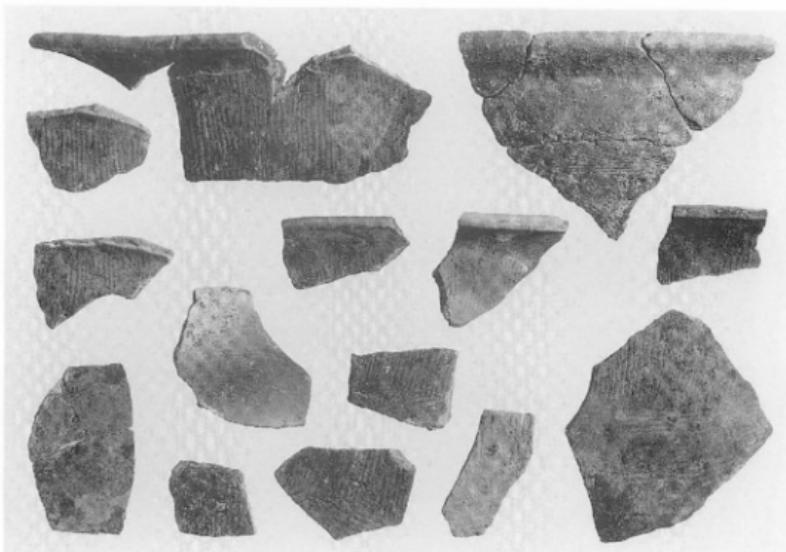
3号土器集積遺構出土かわらけ



出土須恵器



出土瓦器



出土場



出土置き場

松山市文化財調査報告書 第22集

## 南江戸闕目遺跡

---

平成3年3月31日 発行

編集・発行 松山市教育委員会 文化教育課

松山市立埋蔵文化財センター

〒791 松山市南斎院町乙67番地6

TEL (0899) 23-6363

印刷 原印刷株式会社

〒791 松山市山越4丁目8-15

TEL (0899) 24-8823

---